

大学番号：045

注3

[平成29年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

意見伺い

名古屋大学 情報学部

注2

## 【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 名古屋大学  
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画部企画課

職名・氏名 カチョウ ヒロシ タカシ  
課長・廣石 孝

電話番号 052-789-5466

（夜間） 同上

F A X 052-747-6500

e-mail sougoukikakusitu1@adm.nagoya-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。



# 目次

## 情報学部

<自然情報学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	28
6. 留意事項等に対する履行状況等	54
7. その他全般的事項	59

<人間・社会情報学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	63
2. 授業科目の概要	68
3. 施設・設備の整備状況、経費	76
4. 既設大学等の状況	77
5. 教員組織の状況	90
6. 留意事項等に対する履行状況等	112
7. その他全般的事項	117

<コンピュータ科学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	121
2. 授業科目の概要	126
3. 施設・設備の整備状況、経費	133
4. 既設大学等の状況	134
5. 教員組織の状況	147
6. 留意事項等に対する履行状況等	166
7. その他全般的事項	171



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

## (2) 大学名

名古屋大学

## (3) 大学の位置

〒464-8601  
愛知県名古屋市千種区不老町1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(マツオ セイイチ) 松尾清一 (平成27年4月)		
理事	(ワタナベ ヨシヒト) 渡辺芳人 (平成24年4月)		
理事	(マツシタ ユウシュウ) 松下裕秀 (平成27年4月)		
理事	(キムラ ショウゴ) 木村彰吾 (平成27年4月)		
理事	(ザイマ シゲアキ) 財満鎮明 (平成29年4月)		
理事	(タカハシ マサヒデ) 高橋雅英 (平成29年4月)		
理事	(イソガイ ケイスケ) 磯谷桂介 (平成29年1月)		
理事	(ゴウ ミチコ) 郷通子 (平成27年4月)		

学部長	(ムラセ ヒロシ) 村瀬 洋 (平成29年4月)		
学科長	(アゼカミ ヒデユキ) 畔上 秀幸 (平成29年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
情報学部 自然情報学科 学士(情報学)	学際領域	4年	38人	第3年次 4人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	38 ( - ) [ - ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		1.02倍	
志願者数	142 ( - ) [ 6 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
受験者数	114 ( - ) [ 5 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
合格者数	42 ( - ) [ 2 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
B 入学者数	39 ( - ) [ 0 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.02									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	39 [ 0 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
計	39 [ 0 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。



(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	39 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
			平成32年度	人	人		
平成32年度 入学者	人	人	平成32年度	人	人		%
合 計	39 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)

・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。

・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、

【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<情報学部 自然情報学科>

### (1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手				
全学 教育 科目	基礎 セミナー I	基礎セミナーA	1前	2				1				兼 2		
		基礎セミナーB	1後	2		2						兼 1		
	言語 文化 I	英語（基礎）	1前	1									兼 2	
		英語（中級）	1後	1									兼 3	
		英語（コミュニケーション）	1後	2									兼 3	
		英語（上級）	2前	2									兼 3	
		ドイツ語1	1前	1.5									兼 3	
		ドイツ語2	1前	1.5									兼 3	
		ドイツ語3	1後	1.5									兼 3	
		ドイツ語4	1後	1.5									兼 3	
		フランス語1	1前	1.5									兼 3	
		フランス語2	1前	1.5									兼 3	
		フランス語3	1後	1.5									兼 3	
		フランス語4	1後	1.5									兼 3	
		ロシア語1	1前	1.5									兼 1	
		ロシア語2	1前	1.5									兼 1	
		ロシア語3	1後	1.5									兼 1	
		ロシア語4	1後	1.5									兼 1	
		中国語1	1前	1.5									兼 3	
		中国語2	1前	1.5									兼 3	
		中国語3	1後	1.5									兼 3	
		中国語4	1後	1.5									兼 3	
		スペイン語1	1前	1.5									兼 2	
		スペイン語2	1前	1.5									兼 2	
		スペイン語3	1後	1.5									兼 2	
		スペイン語4	1後	1.5									兼 2	
		朝鮮・韓国語1	1前	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語2	1前	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語3	1後	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語4	1後	1.5									兼 1	
		日本語（口頭表現）1	1前	1.5									兼 1	
		日本語（口頭表現）2	1後	1.5									兼 1	
	日本語（文章表現）1	1前	1.5									兼 2		
日本語（文章表現）2	1後	1.5									兼 1			

言語文化Ⅱ	特別英語セミナー（ライティング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（ライティング）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	3前	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（リーディング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（リーディング）2	3後	2							兼 1
	中級ドイツ語1	2前	2							兼 1
	中級ドイツ語2	2後	2							兼 1
	中級フランス語1	2前	2							兼 2
	中級フランス語2	2後	2							兼 2
	中級ロシア語1	2前	2							兼 1
	中級ロシア語2	2後	2							兼 1
	中級中国語1	2前	2							兼 3
	中級中国語2	2後	2							兼 3
	中級スペイン語1	2前	2							兼 2
	中級スペイン語2	2後	2							兼 2
	中級朝鮮・韓国語1	2前	2							兼 1
	中級朝鮮・韓国語2	2後	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）1	2前	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）2	2後	2							兼 1
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前	2							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1							兼 3
文系基礎科目	哲学	1前	2							兼 1
	歴史学	1後	2							兼 3
	文学	1後	2							兼 3
	地理学	1前	2							兼 3
	社会学	1前	2							兼 1
	心理学Ⅰ	1前	2							兼 2
	心理学Ⅱ	1前	2							兼 1
	教育学	2前	2							兼 2
	日本国憲法	1後	2							兼 2
	法学	1前	2							兼 3
	政治学	2前	2							兼 1
	経済学A	1前	2							兼 3
	経済学B	1後	2							兼 2
	経営学	2前	2							兼 2
	国際関係論	1後	2							兼 2
	国際開発学	1前	2							兼 3
	比較文化論	1後	2							兼 1
比較教育論	1前	2							兼 1	
統計学	1後	2							兼 2	



	原子・分子の科学	2後		2							兼 2	
	物質世界の認識	1後		2							兼 2	
	物質と材料の科学	1後		2							兼 1	
	物質と科学	1後		2		1						
	現代の生命科学	2後		2							兼 2	
	現代医療と生命科学	1前		2							兼 1	
	生涯健康と医学	2後		2							兼 1	
	健康増進科学	2後		2							兼 1	
	遺伝子の世界	1後		2							兼 1	
	食と農の科学	1前		2							兼 2	
	動植物の科学	1後		2							兼 1	
	微生物の科学	2後		2							兼 2	
	バイオテクノロジー	2後		2							兼 2	
	地球惑星の科学	1前		2							兼 2	
	自然環境と人間	1後		2							兼 1	
	エネルギーと環境	2後		2							兼 1	
	自然環境と人間社会	1前		2							兼 2	
	環境問題と人間	1後		2							兼 2	
	都市と環境	1後		2							兼 1	
	大気水圏環境の科学	1前		2							兼 2	
	現代芸術論	2前		2							兼 2	
	芸術と人間精神	2前		2							兼 1	
	表象芸術論	2前		2							兼 1	
	音楽芸術論	2前		2							兼 2	
	科学・技術の倫理	2前		2							兼 1	
	科学技術史	2前		2							兼 1	
	科学技術社会論	2前		2							兼 1	
	科学技術とジェンダー	2前		2							兼 1	
	宗教と人類文化	2前		2							兼 2	
	異文化論	2後		2							兼 1	
専門科目	スタートアップ科目	1②	1								兼 7	
	インフォマティクス2	1②	1			2					兼 10	
	インフォマティクス3	1③	1								兼 8	
	インフォマティクス4	1④	1			2	2					
	感じる情報学	1① 1②		1							兼 5	時間割・講義室調整により開講学期を変更(29)
	情報の挑戦者・開拓者たち	1①	2			1					兼 2	

情報科学技術の基礎となる科目	情報セキュリティとリテラシー1	1①	1				1				兼 2	
	情報セキュリティとリテラシー2	1②	1				1				兼 4	
	プログラミング1	1③	2				1				兼 4	
	プログラミング2	1④	2								兼 2	
	離散数学及び演習	2①		2		1					兼 2	
	論理設計及び演習1	2③		1							兼 1	
	論理設計及び演習2	2④		1							兼 1	
	情報理論	2③		1							兼 1	
	確率統計及び演習	2③		2							兼 1	
	アルゴリズム1	2③		1		1					兼 1	
	アルゴリズム2	2④		1		1					兼 1	
	システム数学及び演習1	2③		1							兼 3	
	システム数学及び演習2	2④		1							兼 3	
線形代数学の発展1	2③		1				1					
線形代数学の発展2	2④		1				1					
自然や社会の基礎となる科目として理	情報システムとしての自然1：生きる	2③		1		3	2					
	情報システムとしての自然2：流れる	2④		1		5	1					
	情報と国際社会	2①		1							兼 4	
	人間の知・機械の知	2③		1							兼 1	
	心の科学	2①		1							兼 5	
	クリエイティブ・ネットワーキング	2①		1			1				兼 1	
論理的に課題を発見・解決するための基礎と	社会調査	2①		1							兼 3	
	論理学1	2③	1			1					兼 3	
	論理学2a	2④		1		2		1				
	科学方法論	2④		1							兼 1	
	複雑系科学の基礎	2①		1		1						
	意思決定	2④		1		1	1					
	データマイニング入門	2①	1			1					兼 2	
	情報創造	2①		1							兼 2	
	問題解決・課題解決の科学1	2③		1		1					兼 1	
	問題解決・課題解決の科学2	2④		1		1						
	シミュレーション・サイエンス1	2③		1		3	1					
シミュレーション・サイエンス2	2④		1		4	2						
社会とのインタラクションのための科目(学部共通)	アカデミック・イングリッシュ	3②		2							兼 1	
	アカデミック・ライティング	3②		2							兼 1	
	マネジメント	3②		1		1						
	情報倫理と法	3①	1								兼 3	
	PBL1	3②		2		1			1			
	PBL2	3②		2							兼 6 7	家庭の事情により、就任 辞退(29)
	PBL3	3②		2							兼 6 7	
	情報と職業1	3②		1							兼 1	
	情報と職業2	3②		1							兼 1	

自然情報学  
科固有の  
専門科目

数理情報学序論1	2②	1	2	1	1			
数理情報学序論2	2②	1	2	2				
微積分学の発展1	2②	1	4	3	1			
微積分学の発展2	2②	1	4	3	1			
数理情報学演習1	2②	1	4	3	1			
数理情報学演習2	2④	1	4	3	1			
数理情報学1	3③	1		2				
数理情報学2	3④	1		2				
数理情報学3	3①	1	2					
数理情報学4	3①	1	2					
数理情報学5	3①	1			1			
数理情報学6	3①	1			1			
数理情報学7	3③	1	2					
数理情報学8	3④	1	2					
数理情報学9	3③	1	2		1			
数理情報学10	3④	1	2		1			
数理情報学11	3①	1		1				
数理情報学12	3①	1		1				
数理情報学13	3③	1	2		1			
数理情報学14	3④	1	2		1			
数理情報学15	3④	1	2					
数理情報学16	3④	1	2					
数理情報学17	3③	1	1					
数理情報学18	3④	1	4	3	1			
数理情報学演習3	3③	1	4	3	1			
数理情報学演習4	3④	1	4	3	1			
数理情報学演習5	3①	1	1			1		
数理情報学演習6	3①	1	1			1		
数理情報学演習7	4①	1	4	3	1			
数理情報学演習8	4②	1	4	3	1			
数理情報学演習9	4①	1	4	3	1			
複雑システム系序論1	2①	1	3	4				
複雑システム系序論2	2①	1	6	2				
物質情報学1	2②	1	1					
物質情報学2	2②	1	1	1				
物質情報学3	2②	1	1	1				
物質情報学4	3①	1	1	1				
物質情報学5	3①	1	1	1				
物質情報学6	3③	1	2					
物質情報学7	3③	1	1	1				
物質情報学8	3④	1	1	1				
物質情報学9	3④	1	1	1				
物質情報学10	3④	1	2					
物質情報学11	4①	1	1					
計算情報学1	2②	1	1	1				
計算情報学2	2②	1	1	1				
計算情報学3	2②	1	2					
計算情報学4	3①	1	1	1				
計算情報学5	3①	1	1	1				
計算情報学6	3③	1	1	1				
計算情報学7	3③	1	2					

計算情報学8	3④	1	1	1			
計算情報学9	3④	1	2				
計算情報学10	3④	1	1	1			
計算情報学11	4①	1	1				
計算情報学12	4①	1	1				
複雑システム系演習1	3①	1	13	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習2	3②	1	13	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習3	3③	1	13	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習4	3④	1	13	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習5	4①	1	12	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習6	4②	1	12	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習7	4③	1	12	7	2 1	4 5	
複雑システム系演習8	4④	1	12	7	2 1	4 5	
卒業研究	4④	6	17	10	3 2		

担当教員の職位の変更 (29)  
 担当 長尾征洋 (講師)  
 平成29年1月 教員審査済  
 判定 可

職位の変更により、担当教員を追加 (29)  
 担当 長尾征洋 (講師)  
 平成29年1月 教員審査済  
 判定 可

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
17	247	0	264	17	247	0	264	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)



(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{264} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡		
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡			
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡			
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡			
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡			
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡			
(2) 校舎	専 用	578,743 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	578,743 ㎡	大学全体		
	( 578,743 ㎡)	( 0 ㎡)	( 0 ㎡)	( 578,743 ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	情報学部			96 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本		
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種				電子ジャーナル〔うち外国書〕	点
	情報学部	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)	
	計	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)	
(6) 図書館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	24,829 ㎡		2,031 席		3,140,500 冊			
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	9,229 ㎡		弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学定員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.06	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	135 38	学士(情報学)	1.02	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	38	学士(情報学)	1.02	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	59	学士(情報学)	1.11	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.05	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.01	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				—					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		平成29年より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		平成29年より学生募集停止
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		平成29年より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		平成29年より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度		
物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度		
マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度		
電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度		
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度		
エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度		
環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	61	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.86			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.83	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.06		
法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.87	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.84	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.51		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学) 修士(学術)	0.78	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(情報学) 修士(学術)	0.80		
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(情報学) 修士(学術)	1.42		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(情報学) 修士(学術)	0.66		
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
(博士後期課程)	3	10	—	10	修士(情報学) 修士(学術)	0.60		
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08	昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73		
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度	
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成29年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年より募集停止
機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年より募集停止
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56			
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50			
工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			



大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60		
総合エネルギー専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14	平成9年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21	平成10年度		
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10	平成16年度		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
国際開発研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度 平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20	平成4年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度 平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学) 修士(学術)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(学術)	—			
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学) 修士(理学)	0.89	平成13年度 平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	24	—	74	博士(環境学) 博士(理学)	0.42			
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学) 修士(工学) 修士(建築学)	1.31	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学) 修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学)	1.00	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	49	博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士(創薬科学)	1.05	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.80			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
- ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報学部 自然情報学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	松原 洋	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 論理学Ⅰ 論理学2a 数理情報学序論Ⅰ ※ 微積分学の発展Ⅰ 微積分学の発展Ⅱ 数理情報学演習Ⅰ 数理情報学演習Ⅱ 数理情報学Ⅸ 数理情報学Ⅹ 数理情報学Ⅼ【隔年】 数理情報学Ⅽ【隔年】 数理情報学Ⅾ【隔年】 数理情報学ⅰ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 卒業研究						
専	教授	吉信 康夫	平成29年4月	線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ 論理学2a 数理情報学序論Ⅰ ※ 微積分学の発展Ⅰ 微積分学の発展Ⅱ 数理情報学演習Ⅰ 数理情報学演習Ⅱ 数理情報学Ⅸ 数理情報学Ⅹ 数理情報学Ⅼ【隔年】 数理情報学Ⅽ【隔年】 数理情報学Ⅾ【隔年】 数理情報学ⅰ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 卒業研究						
専	教授	小野 廣隆	平成29年4月	数理情報学序論Ⅱ ※ 微積分学の発展Ⅰ 微積分学の発展Ⅱ 数理情報学演習Ⅰ 数理情報学演習Ⅱ 数理情報学Ⅲ【隔年】 数理情報学Ⅳ【隔年】 数理情報学Ⅶ【隔年】 数理情報学Ⅷ【隔年】 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 数理情報学ⅱ 卒業研究						



専	教授	柳浦 睦憲	平成29年4月	数理情報学序論2 ※ 微積分学の発展1 微積分学の発展2 数理情報学演習1 数理情報学演習2 数理情報学3【隔年】 数理情報学4【隔年】 数理情報学7【隔年】 数理情報学8【隔年】 数理情報学18 数理情報学演習3 数理情報学演習4 数理情報学演習5 数理情報学演習6 数理情報学演習7 数理情報学演習8 数理情報学演習9 卒業研究						
専	教授	杉山 雄規	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※ 複雑システム系序論1※ 物質情報学1 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4						
専	教授	時田 恵一郎	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※ 複雑システム系序論1※ 複雑システム系序論2※ 計算情報学1 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	谷村 省吾	平成29年4月	複雑システム系序論2※ 物質情報学1 物質情報学6 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						

専	教授	吉田 久美	平成29年4月	化学基礎 I 情報システムとしての自然1：生きる※ 複雑システム系序論1※ 物質情報学7 物質情報学9 物質情報学10 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	太田 元規	平成29年4月	インフォーマティクス4※ 情報システムとしての自然1：生きる※ シミュレーション・サイエンス2※ 物質情報学3 物質情報学10 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	古賀 伸明	平成29年4月	物質と科学 シミュレーション・サイエンス2※ 複雑システム系序論1※ 物質情報学2 物質情報学6 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						

専	教授	長岡 正隆	平成29年4月	化学基礎Ⅱ インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス2※ 複雑システム系序論2※ 物質情報学4 物質情報学5 物質情報学8 物質情報学11 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	有田 隆也	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティクス2※ 複雑系科学の基礎 計算情報学6 計算情報学8 計算情報学12 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						

専	教授	北 栄輔	平成29年4月	<p>図情報とコンピュータ  インフォマティクス2※  情報の挑戦者・開拓者たち  プログラミング2  情報システムとしての自然1：生きる※  情報システムとしての自然2：流れる※  データマイニング入門  問題解決・課題解決の科学1※  問題解決・課題解決の科学2  マネジメント  PBL1  計算情報学5  計算情報学10  計算情報学11  複雑システム系演習1  複雑システム系演習2  複雑システム系演習3  複雑システム系演習4  複雑システム系演習5  複雑システム系演習6  複雑システム系演習7  複雑システム系演習8  卒業研究</p>						
専	教授	畔上 秀幸	平成29年4月	<p>情報リテラシー(理系)  シミュレーション・サイエンス2※  複雑システム系序論2※  計算情報学3  計算情報学4  複雑システム系演習1  複雑システム系演習2  複雑システム系演習3  複雑システム系演習4  複雑システム系演習5  複雑システム系演習6  複雑システム系演習7  複雑システム系演習8  卒業研究</p>						

専	教授	渡邊 崇	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1 ※ 計算情報学7 計算情報学9 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	大岡 昌博	平成29年4月	基礎セミナーB 情報システムとしての自然2：流れる※ 複雑システム系序論2※ 計算情報学7 計算情報学9 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	内山 知実	平成29年4月	情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1 ※ 複雑システム系序論2※ 計算情報学2 計算情報学3 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	教授	栗本 英和	平成29年4月	意思決定※ 卒業研究						

専	准教授	佐藤 潤也	平成29年4月	数理情報学序論1 ※ 微積分学の発展1 微積分学の発展2 数理情報学演習1 数理情報学演習2 数理情報学11 数理情報学12 数理情報学18 数理情報学演習3 数理情報学演習4 数理情報学演習7 数理情報学演習8 数理情報学演習9 卒業研究						
専	准教授	西村 治道	平成29年4月	数理情報学序論2 ※ 微積分学の発展1 微積分学の発展2 数理情報学演習1 数理情報学演習2 数理情報学1 数理情報学2 数理情報学18 数理情報学演習3 数理情報学演習4 数理情報学演習7 数理情報学演習8 数理情報学演習9 卒業研究						
専	准教授	BUSCEMI Francesco	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ インフォーマティク ス4※ 線形代数の発展 1 線形代数の発展 2 数理情報学序論2 ※ 微積分学の発展1 微積分学の発展2 数理情報学演習1 数理情報学演習2 数理情報学2 数理情報学18 数理情報学演習3 数理情報学演習4 数理情報学演習7 数理情報学演習8 数理情報学演習9 卒業研究						
専	准教授	中村 泰之	平成29年4月	物理学基礎Ⅰ 意思決定※ シミュレーショ ン・サイエンス1 ※ 複雑システム系序 論1※ 物質情報学4 物質情報学5 複雑システム系演 習1 複雑システム系演 習2 複雑システム系演 習3 複雑システム系演 習4 複雑システム系演 習5 複雑システム系演 習6 複雑システム系演 習7 複雑システム系演 習8 卒業研究						

専	准教授	青木 撰之	平成29年4月	情報システムとしての自然1：生きる※ 複雑システム系序論1※ 物質情報学3 物質情報学7 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	准教授	張 賀東	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス2※ 複雑システム系序論1※ 物質情報学8 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	准教授	永峰 康一郎	平成29年4月	地球科学基礎 I 情報セキュリティリテラシー1 情報システムとしての自然1：生きる※ 複雑システム系序論2※ 計算情報学5 計算情報学10 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						

専	准教授	鈴木 麗瑩	平成29年4月	基礎セミナーA 情報セキュリティ とリテラシー2 プログラミング1 クリエイティブ・ ネットワーキング 計算情報学6 計算情報学8 複雑システム系演 習1 複雑システム系演 習2 複雑システム系演 習3 複雑システム系演 習4 複雑システム系演 習5 複雑システム系演 習6 複雑システム系演 習7 複雑システム系演 習8 卒業研究							
専	准教授	鈴木 泰博	平成29年4月	インフォマティッ クス4※ 情報システムとし ての自然2：流れ る※ 複雑システム系序 論2※ 計算情報学1 計算情報学2 計算情報学4 複雑システム系演 習1 複雑システム系演 習2 複雑システム系演 習3 複雑システム系演 習4 複雑システム系演 習5 複雑システム系演 習6 複雑システム系演 習7 複雑システム系演 習8 卒業研究							
専	准教授	安田 耕二	平成29年4月	シミュレーショ ン・サイエンス2 ※ 複雑システム系序 論1※ 物質情報学2 物質情報学9 複雑システム系演 習1 複雑システム系演 習2 複雑システム系演 習3 複雑システム系演 習4 複雑システム系演 習5 複雑システム系演 習6 複雑システム系演 習7 複雑システム系演 習8 卒業研究							



専	講師	木原 貴行	平成29年4月	論理学2a 数理情報学序論1 ※ 微積分学の発展1 微積分学の発展2 数理情報学演習1 数理情報学演習2 数理情報学5 数理情報学6 数理情報学9 数理情報学10 数理情報学13【隔年】 数理情報学14【隔年】 数理情報学18 数理情報学演習3 数理情報学演習4 数理情報学演習7 数理情報学演習8 数理情報学演習9 卒業研究						
専	講師	塚本 眞幸	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究						
専	助教	胡 艶楠	平成29年4月	数理情報学演習5 数理情報学演習6						
専	助教	泉田 勇輝	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8						
専	助教	小池 亮太郎	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8						

専	助教	井内 哲	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8						
専	助教	笹原 和俊	平成29年4月	PBL1 複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8						
専	助教	長尾 征洋	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8	専	講師	長尾 征洋	平成29年4月	複雑システム系演習1 複雑システム系演習2 複雑システム系演習3 複雑システム系演習4 複雑システム系演習5 複雑システム系演習6 複雑システム系演習7 複雑システム系演習8 卒業研究	教育内容の充実のため、職位の変更、担当科目の追加 平成29年1月 AC教員審査済（29）
兼担	教授	米山 優	平成29年4月	インフォマティクス2※ 感じる情報学※						
兼担	教授	戸田山 和久	平成29年4月	科学・技術の倫理 インフォマティクス2※ 論理学1 論理学2b 科学方法論 アカデミック・ライティング 情報倫理と法※						
兼担	教授	安田 孝美	平成29年4月	情報メディアとコミュニケーション インフォマティクス2※ 情報の挑戦者・開拓者たち						
兼担	教授	中村 登志哉	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4 インフォマティクス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業1						

兼担	教授	三輪 和久	平成29年4月	人間の知・機械の知 心の科学※						
兼担	教授	川口 潤	平成29年4月	インフォマティクス2※ 心の科学※						
兼担	教授	唐沢 (唐澤) 穰	平成29年4月	心理学 I 人間と行動 インフォマティクス2※ 心の科学※						
兼担	教授	酒井 正彦	平成29年4月	インフォマティクス1※						
兼担	教授	枝廣 正人	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティクス1※ 論理設計及び演習1 論理設計及び演習2						
兼担	教授	高田 広章	平成29年4月	インフォマティクス1※ PBL2 PBL3						
兼担	教授	関 浩之	平成29年4月	基礎セミナーA 離散数学及び演習 情報理論						
兼担	教授	結縁 祥治	平成29年4月	インフォマティクス1※ 論理学1 論理学2c						
兼担	教授	村瀬 勉	平成29年4月	インフォマティクス1※ 情報セキュリティ とリテラシー1						
兼担	教授	山本 雅基	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	教授	坂本 直史	平成29年4月	PBL2 PBL3			後任未定			平成29年3月 坂本直史教授就任辞退(29) 「後任未定」担当する 全科目に十分な数の担当 教員が配置されているため、 支障はない。
兼担	教授	村瀬 洋	平成29年4月	インフォマティクス3※ 情報の挑戦者・開拓者たち 確率統計及び演習						
兼担	教授	外山 勝彦	平成29年4月	離散数学及び演習						
兼担	教授	石川 佳治	平成29年4月	基礎セミナーA インフォマティクス1※ データマイニング 入門						
兼担	教授	森 健策	平成29年4月	インフォマティクス3※						
兼担	教授	間瀬 健二	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティクス3※						
兼担	教授	長尾 確	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティクス3※						

兼担	教授	武田 一哉	平成29年4月	インフォマティックス3※ システム数学及び演習1 システム数学及び演習2						
兼担	教授	井上 進	平成29年4月	歴史学						
兼担	教授	町田 健	平成29年4月	文学	兼担	准教授	田村 加代子	平成29年4月	文学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	塩村 耕	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉田 純	平成29年4月	生と死の人間学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	池内 敏	平成29年4月	歴史学						
兼担	教授	吉田 純	平成29年4月	哲学	兼担	教授	松澤 和宏	平成29年4月	哲学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	栗田 秀法	平成29年4月	芸術と人間精神	兼担	教授	伊藤 大輔	平成29年4月	芸術と人間精神	担当教員の変更(29)
兼担	教授	中村 靖子	平成29年4月	文学						
兼担	教授	田中 智之	平成29年4月	ことばの不思議						
兼担	教授	南部 初世	平成29年4月	現代社会と教育						
兼担	教授	服部 美奈	平成29年4月	比較教育論						
兼担	教授	阿曾沼 明裕	平成29年4月	教育学						
兼担	教授	國分 典子	平成29年4月	法学						
兼担	教授	三浦 聡	平成29年4月	国際関係論	兼任	講師	木下 郁夫	平成29年4月	国際関係論	担当教員の変更(29)
兼担	教授	水島 朋則	平成29年4月	国際関係論	兼担	教授	山田 高敬	平成29年4月	国際関係論	担当教員の変更(29)
兼担	教授	姜 東局	平成29年4月	グローバル化時代の国際社会	兼担	教授	定形 衛	平成29年4月	グローバル化時代の国際社会	担当教員の変更(29)
兼担	教授	大河内 美紀	平成29年4月	日本国憲法						
兼担	教授	中野 妙子	平成29年4月	現代社会と法	兼担	准教授	松尾 陽	平成29年4月	現代社会と法	担当教員の変更(29)

兼担	教授	鍋島 直樹	平成29年4月	経済学B						
兼担	教授	工藤 教孝	平成29年4月	経済学A						
兼担	教授	清井 仁	平成29年4月	生涯健康と医学	兼担	教授	日比 英晴	平成29年4月	生涯健康と医学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	長縄 慎二	平成29年4月	現代医療と生命科学	兼担	教授	碓氷 章彦	平成29年4月	現代医療と生命科学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	浅野 みどり	平成29年4月	健康増進科学						
兼担	教授	田邊 靖博	平成29年4月	物質世界の認識						
兼担	教授	堀 勝	平成29年4月	エレクトロニクスと物性科学						
兼担	教授	佐宗 章弘	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	教授	社本 英二	平成29年4月	物理現象の科学						
兼担	教授	服部 束穂	平成29年4月	動植物の科学						
兼担	教授	浅川 晋	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	戸丸 信弘	平成29年4月	環境問題と人間						
兼担	教授	饗場 浩文	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	吉田 伸生	平成29年4月	現代数学への流れ						
兼担	教授	永尾 太郎	平成29年4月	現代数学への流れ	兼担	教授	太田 啓史	平成29年4月	現代数学への流れ	担当教員の変更(29)
兼担	教授	伊山 修	平成29年4月	複素関数論	兼任	講師	大島 和幸	平成29年4月	複素関数論	担当教員の変更(29)
兼担	教授	宇佐見 晃一	平成29年4月	国際開発学						
兼担	教授	大坪 滋	平成29年4月	開発の光と影						
兼担	教授	山形 英郎	平成29年4月	国際開発学	兼担	教授	伊東 早苗	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)

兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語（基礎） 英語（中級）	兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語（中級）	担当教員の変更(29)
兼担	教授	東村 岳史	平成29年4月	国際開発学	兼担	准教授	日下 渉	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	藤井 たぎる	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	教授	胡 潔	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	田所 光男	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	教授	西川 智之	平成29年4月	中級ドイツ語1						
兼担	教授	水戸 博之	平成29年4月	中級スペイン語1 中級スペイン語2						
兼担	教授	涌井 隆	平成29年4月	英語（コミュニケーション）						
兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語（上級）	兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語（上級）	担当教員の変更(29)
兼担	教授	浮葉 正親	平成29年4月	日本語（口頭表現）1 日本語（文章表現）1 日本語（文章表現）2 上級日本語（文章表現）1 上級日本語（文章表現）2						
兼担	教授	HAIG EDWARD	平成29年4月	特別英語セミナー（ライティング）1	兼担	准教授	WATSON Alex	平成29年4月	特別英語セミナー（ライティング）1	担当教員の変更(29)
兼担	教授	杉村 泰	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語1						
兼担	教授	星野 幸代	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	岡本 耕平	平成29年4月	地理学	兼担	准教授	伊賀 聖屋	平成29年4月	地理学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	加藤 尚史	平成29年4月	統計学						
兼担	教授	篠田 雅人	平成29年4月	大気水圏環境の科学						
兼担	教授	杉谷 健一郎	平成29年4月	地球科学基礎Ⅱ 地球科学実験						

兼担	教授	日比野 高士	平成29年4月	化学実験	兼担	准教授	渡辺 賢一	平成29年4月	化学実験	担当教員の変更(29)
兼担	教授	高橋 誠	平成29年4月	地理学						
兼担	教授	高村 ゆかり	平成29年4月	現代社会と法						
兼担	教授	角皆 潤	平成29年4月	大気水圏環境の科学						
兼担	教授	谷川 寛樹	平成29年4月	自然環境と人間社会						
兼担	教授	山本 裕二	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義						
兼担	教授	石田 浩司	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ						
兼担	教授	秋間 広	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義						
兼担	教授	竹之内 隆志	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ						
兼担	教授	中村 光廣	平成29年4月	物理学基礎Ⅱ						
兼担	教授	山中 章弘	平成29年4月	自然環境と人間	兼担	教授	竹本 さやか	平成29年4月	自然環境と人間	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	小池 直人	平成29年4月	現代社会の思想的課題						
兼担	准教授	秋庭 史典	平成29年4月	芸術と人間 現代芸術論 インフォマティクス2※ 感じる情報学※ 情報創造						
兼担	准教授	久木田 水生	平成29年4月	科学・技術の哲学 インフォマティクス2※ 感じる情報学※ 情報セキュリティとリテラシー2 情報創造 問題解決・課題解決の科学1※						
兼担	准教授	加藤 ジェーン	平成29年4月	プログラミング1 データマイニング入門						

兼担	准教授	遠藤 守	平成29年4月	情報メディアとコミュニケーション 感じる情報学※ プログラミング1 クリエイティブ・ ネットワーキング						
兼担	准教授	後藤 明史	平成29年4月	情報と国際社会※						
兼担	准教授	小川 明子	平成29年4月	英語（中級） 英語（コミュニケーション） 英語（上級） インフォマティックス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業2						
兼担	准教授	井原 伸浩	平成29年4月	英語（基礎） 英語（中級） 英語（上級） インフォマティックス2※ 情報と国際社会※						
兼担	准教授	河村 則行	平成29年4月	社会変動と人間生活 社会調査						
兼担	准教授	丸山 康司	平成29年4月	社会と環境 社会調査						
兼担	准教授	青木 聡子	平成29年4月	社会学 社会調査						
兼担	准教授	氏原 温	平成29年4月	地球科学実験						
兼担	准教授	川合 伸幸	平成29年4月	感じる情報学※ 心の科学※						
兼担	准教授	北神 慎司	平成29年4月	人間と環境 感じる情報学※ 心の科学※						
兼担	准教授	鈴木 敦命	平成29年4月	心理学 I インフォマティックス2※ 心の科学※						
兼担	准教授	西田 直樹	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2						
兼担	准教授	本田 晋也	平成29年4月	インフォマティックス1※ PBL2 PBL3						
兼担	准教授	吉田 則裕	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	准教授	森崎 修司	平成29年4月	情報リテラシー (理系)						
兼担	准教授	中澤 巧爾	平成29年4月	論理学1 論理学2c						



兼担	准教授	嶋田 創	平成29年4月	情報セキュリティ とりテラシー1 情報セキュリティ とりテラシー2						
兼担	准教授	萩野 正雄	平成29年4月	プログラミング1 プログラミング2						
兼担	准教授	倉地 亮	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	准教授	井手 一郎	平成29年4月	線形代数学Ⅱ インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	出口 大輔	平成29年4月	線形代数学Ⅰ インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	小川 泰弘	平成29年4月	情報セキュリティ とりテラシー2 プログラミング1 プログラミング2						
兼担	准教授	松原 茂樹	平成29年4月	インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	竹内 栄二郎	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	宮島(山本) 千代美	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	歴史学						
兼担	准教授	畝部 俊也	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉武 純夫	平成29年4月	生と死の人間学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	文学	兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	加納 修	平成29年4月	表象と文化	兼担	准教授	栗田 秀法	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	宮地 朝子	平成29年4月	比較文化論	兼担	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	比較文化論	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文化を読む	兼担	教授	釘貫 亨	平成29年4月	文化を読む	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	ことばの不思議	兼担	教授	滝川 睦	平成29年4月	ことばの不思議	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	教育と発達心理	兼担	教授	平石 賢二	平成29年4月	教育と発達心理	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	内田 良	平成29年4月	教育学	兼担	准教授	ARANI Mohammad reza	平成29年4月	教育学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	五十嵐 祐	平成29年4月	心理学Ⅱ	兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	心理学Ⅱ	担当教員の変更(29)

兼担	准教授	河野 明日香	平成29年4月	現代社会と教育						
兼担	准教授	宮木 康博	平成29年4月	現代社会と法						
兼担	准教授	佐藤 史人	平成29年4月	民主主義の歴史と現在						
兼担	准教授	古川 伸彦	平成29年4月	法学						
兼担	准教授	松中 学	平成29年4月	法学						
兼担	准教授	加藤 哲理	平成29年4月	政治学						
兼担	准教授	大塚 篤	平成29年4月	経営学	兼担	准教授	宮崎 正也	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中屋 信彦	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	園田 正	平成29年4月	市場経済と社会	兼担	准教授	木越 義則	平成29年4月	市場経済と社会	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中村 さやか	平成29年4月	経済学A	兼担	教授	柳瀬 明彦	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	江夏 幾多郎	平成29年4月	経営学	兼担	講師	高橋 秀徳	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	小堀 聡	平成29年4月	経済学B	兼担	講師	伊藤 カンナ	平成29年4月	経済学B	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	荒渡 良	平成29年4月	経済学A	兼担	准教授	玉井 寿樹	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	井原 邦夫	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	松浦 能行	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	植田 研二	平成29年4月	先端材料と物性物理						
兼担	准教授	加藤 剛志	平成29年4月	物理学実験	兼担	教授	八木 伸也	平成29年4月	物理学実験	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	稲垣 伸吉	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	准教授	加地 範匡	平成29年4月	原子・分子の科学						

兼任	准教授	櫻田 啓	平成29年4月	物質世界の認識							
兼任	准教授	上口 美弥子	平成29年4月	バイオテクノロジー							
兼任	准教授	上口 智治	平成29年4月	遺伝子の世界							
兼任	准教授	石川 明	平成29年4月	食と農の科学							
兼任	准教授	村瀬 潤	平成29年4月	環境問題と人間							
兼任	准教授	山本 一清	平成29年4月	自然環境と人間社会							
兼任	准教授	岩崎 雄吾	平成29年4月	バイオテクノロジー							
兼任	准教授	村井 篤嗣	平成29年4月	食と農の科学	兼任	准教授	土井 一行	平成29年4月	食と農の科学	担当教員の変更(29)	
兼任	准教授	久保 仁	平成29年4月	複素関数論	兼任	教授	吉田 伸生	平成29年4月	複素関数論	担当教員の変更(29)	
兼任	准教授	笠井 直美	平成29年4月	中級中国語2							
兼任	准教授	SAVELIEV IGOR	平成29年4月	ロシア語1 ロシア語2 ロシア語3 ロシア語4 中級ロシア語1 中級ロシア語2							
兼任	准教授	西村 秀人	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語2							
兼任	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2							
兼任	准教授	渡辺 美樹	平成29年4月	英語(コミュニケーション)							
兼任	准教授	WEEKS Mark Charles	平成29年4月	特別英語セミナー(プレゼンテーション)1 特別英語セミナー(プレゼンテーション)2	兼任	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー(プレゼンテーション)1 特別英語セミナー(プレゼンテーション)2	担当教員の変更(29)	
兼任	准教授	CROSS Jeremy david	平成29年4月	特別英語セミナー(リーディング)1 特別英語セミナー(リーディング)2	兼任	准教授	NUSKE Kyle david	平成29年4月	特別英語セミナー(リーディング)1	担当教員の変更(29)	

兼担	准教授	古田 香織	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4 中級フランス語1 中級フランス語2						
兼担	准教授	山口 庸子	平成29年4月	中級ドイツ語2						
兼担	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	中級フランス語1						
兼担	准教授	新井 美佐子	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	准教授	志波 彩子	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語1						
兼担	准教授	俵山 雄司	平成29年4月	日本語（口頭表現）2 日本語（文章表現）1						
兼担	准教授	勝川 裕子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2						
兼担	准教授	宇都木 昭	平成29年4月	朝鮮・韓国語1 朝鮮・韓国語2 朝鮮・韓国語3 朝鮮・韓国語4 中級朝鮮・韓国語1 中級朝鮮・韓国語2						
兼担	准教授	山中 佳子	平成29年4月	地球惑星の科学						
兼担	准教授	涌田 幸宏	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	齋藤 輝幸	平成29年4月	都市と環境						
兼担	准教授	平原 靖大	平成29年4月	地球惑星の科学	兼担	教授	鷺谷 威	平成29年4月	地球惑星の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	増沢 陽子	平成29年4月	日本国憲法						
兼担	准教授	奥貫 圭一	平成29年4月	地理学						
兼担	准教授	野村 康	平成29年4月	民主主義の歴史と現在						
兼担	准教授	中野 牧子	平成29年4月	統計学						

兼担	准教授	片山 敬章	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	兼担	教授	押田 芳治	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	黒田 健介	平成29年4月	エネルギーと環境	兼担	准教授	丹羽 健	平成29年4月	エネルギーと環境	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	松宮 弘明	平成29年4月	物質と材料の科学	兼担	教授	元廣 友美	平成29年4月	物質と材料の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)2 特別英語セミナー(リーディング)1	兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)2 特別英語セミナー(リーディング)1	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	BAUMERT Nicolas	平成29年4月	中級フランス語2						
兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)1	兼担	准教授	TOMKINSON Fiona gail	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)1	担当教員の変更(29)
兼担	講師	浦田 真由	平成29年4月	インフォマティクス2※ 情報セキュリティとリテラシー2						
兼担	講師	荒木 聡彦	平成29年4月	生物学基礎 I						
兼担	講師	平子 善章	平成29年4月	生物学基礎 II 生物学実験	兼担	教授	木下 俊則	平成29年4月	生物学実験	担当教員の変更(29)
兼担	講師	伊藤 淳一	平成29年4月	原子・分子の科学						
兼担	講師	横山 慶子	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習 I 健康・スポーツ科学実習 II						
兼担	講師	松井 裕美	平成29年4月	表象と文化	兼担	教授	阿部 泰郎	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	助教	松原 豊	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼任	講師	小出 俣子	平成29年4月	アカデミック・イングリッシュ						
兼任	講師	後藤 憲秋	平成29年4月	情報倫理と法※						
兼任	講師	植村 元雄	平成29年4月	情報倫理と法※						
兼任	講師	馬淵 浩一	平成29年4月	科学技術史						
兼任	講師	竹内 創	平成29年4月	現代芸術論						
兼任	講師	梶田 美香	平成29年4月	音楽芸術論						

兼任	講師	村上 泰介	平成29年4月	表象芸術論						
兼任	講師	齋藤 滋	平成29年4月	宗教と人類文化						
兼任	講師	本村 耐樹	平成29年4月	宗教と人類文化						
兼任	講師	井上 研	平成29年4月	異文化論						
兼任	講師	竹下 至	平成29年4月	科学技術社会論						
兼任	講師	森本 頼子	平成29年4月	音楽芸術論						
兼任	講師	鈴木 秀憲	平成29年4月	科学技術とジェンダー						
					兼任	講師	谷川 好男	平成29年4月	線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	担当教員の追加(29)
					兼任	講師	大島 和幸	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	担当教員の追加(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成29年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
17	10	2	6	35	18	10	3	5	36	17	10	3	5	35
(18)	(10)	(3)	(5)	(36)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1		該当なし							
2									
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1		該当なし							
2									
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|



上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(A) + (C)		後任補充状況の集計(B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)	①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修 科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択 科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由 科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計 科目	計	科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (27年6月)	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻)</p> <p>1. 養成する人材像が一般的・包括的な記述となっており、このことからディプロマポリシーも明確ではない。国際連携教育課程制度の趣旨は、我が国の大学と外国の大学が、双方の強みを活かし、また、補完しあいながらより充実した教育研究を行うことであることを踏まえ設置計画の履行に当たっては以下について留意すること。</p> <p>(1) 社会一般や入学を希望する学生に対して、国際連携教育課程制度を通じて養成される人材がどのような専門分野で活躍するかなどを具体的に示すこと。特に、ディプロマポリシーにある「国際的共同研究を推進」について具体的に明示すること。</p>	<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>(1) 医学分野において従来からの個別化医療とともに、Genome解析手法を加え、より診断技術の精度を上げた precision medicine (精密医療) を推進するため、本学における神経がん融合研究、アデレード大学における臨床と結びついたトランスレーショナルリサーチといった両大学の特色を相互補完的に取り入れたカリキュラムに基づく国際連携教育課程制度を通じて養成される人材は、医学分野、特に基礎医学研究と観察的・介入的臨床研究を融合したトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する人材であり、ディプロマ・ポリシーに以下(参考1)のとおり追記して示すこととした。</p> <p>また、養成される人材の例として、①日本とオーストラリアの精神医学的疾患の特徴と研究体制を十分に把握し、この2国を含む複数国を巻き込んだ国際共同治験をリードする臨床医学研究者、②がん研究領域で研究者間の国際的関係を構築し、各国のがん研究の連携を図り、全体として世界のがん研究をリードする基礎医学研究者、③日本で高齢化社会に対する各種先駆的な取組に触れ、医学的見地から必要とされる技術について理解し、日本とオーストラリ</p>

アを含む世界各国で医学応用分野で指導的立場となる産業界リーダー、をホームページに掲載して社会一般や入学希望者に示すとともに、入学時全体ガイダンスにおいて入学者にも提示した。

さらに、ディプロマ・ポリシーに掲げる各項目については、論文審査以外にも学生から年次レポートを提出させ、指導教員と合同運営委員会によって評価・確認を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学位審査・学位授与が行われるようにした。

(参考1)

○ディプロマ・ポリシー

「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造性に富み、多様な学問的素養を身に付け、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する。

(28)

(2) 養成する人材像やディプロマポリシーを明確化するには、アドミッションポリシーとして、どのような人材を求めているかをより具体的に示し、2つのポリシーの対応関係についても留意すること。その際、「国際的に活躍する強い意欲」の解釈に幅が出ないように、入学者選抜における判断基準を定めるなど連携外国大学を含めた選考全体の意思疎通を十分に図ること。

(2) 本専攻において求める人材について、ディプロマ・ポリシーに追記したトランスレーショナルリサーチ、また、加速度的な高齢化社会に対応できる医工連携を含めた異分野連携を進めるため、アドミッション・ポリシーに以下(参考2)のとおり追記して示すこととした。

また、アドミッション・ポリシーに沿った入学動機を備えた学生であるか適性を評価するために、書類審査と口頭試問を行うとともに、基軸となる英語能力が入学選抜の基準を満たしているかTOEFL iBT等のスコアについて基準を設け、専攻全体で統一した意志疎通のもと入学審査を行っている。

(参考2)

○アドミッション・ポリシー

① 人間に対する共感と深い洞察力を持つ。

② 知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。

③ 広い視野を持ち、物事を多面的に捉えることができる。

④ 協調性があり、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する強い意欲がある。

(3) カリキュラムポリシーについても、上記を踏まえつつ、対応関係に齟齬が生じないように留意すること。

2. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。

3. 連携外国大学の教員組織について、本専攻の教育研究の目的を十分に果たし得る体制となっていることについて、社会一般や入学を希望する学生に対して、あらかじめ明示すること。

⑤ 独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。  
⑥ 異分野連携によるイノベーションの創出を行う資質を持つ。  
(28)

(3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーへの対応を踏まえ、トランスレーショナルリサーチについて、以下(参考3)のとおり追記して示すこととした。

このカリキュラム・ポリシーに沿って、トランスレーショナルリサーチの知識・技術・倫理に加え、国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授する講義を設けるなど、国際的視野と国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標としたカリキュラムを作成した。

(参考3)

○カリキュラム・ポリシー  
「世界トップ大学同士の相互補完的協同教育により、高い倫理性、科学的論理性を修得させ、幅広い学問的素養を身に付けさせ、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける倫理と国際的共同研究の組織構築の戦略手法を学ばせること」

(28)

年間の学修計画書作成にあたっては、学生が既に身につけている知識、スキルや具体的な研究分野等に応じて、各指導教員から学生に対して履修モデル等を示しつつきめ細かな指導を行っている。また、成績評価基準についてはシラバスに記載するとともに、各指導教員が学生に対して個別に説明することとした。(28)

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域と臨床医学領域から幅広い専門分野を設定し、その医学研究領域をカバーする専任教員を有する教員組織についてシラバスとともに配付した。また、国際連携専攻入学時全体ガイダンスの中で、入学者に対して詳細に説明した。(28)

平成28年10月、連携外国大学の教員組織をホームページに掲載した。(29)

左記にあわせて、平成28年10月末までに連携外国大学の教員組織をホームページに掲載する。(28)

	<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>		<p>連携外国大学との調整を行う教員は、英語能力が高く、博士課程の学生を指導するのに十分な研究業績と国際経験を有するべきであると考え、オーストラリア国籍を有するとともに、カナダのSaskatchewan大学でBiologyの博士号、イギリスのCambridge大学で発行される英語教員免許を有し、オーストラリアのMonash大学薬学部でAssociate Professorとして薬物立体構造解析の研究を行っていた経歴を持つ教員を配置した。また、業務遂行を円滑に行うために語学能力の優れた専属秘書を配置し、体制を強化した。(28)</p>	
<p>設置時 (28年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する理学研究科名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻)</p> <p>1. 本専攻に置く博士後期課程の教育を研究指導のみによって行うのであれば、双方の大学が同種の学位を授与するに当たって求めている標準的な要件を踏まえつつ、本専攻において行われる研究指導において最低限行われるべき内容や要件を協定書等において明確にすること。その上で、国際的に通用する質を備える専攻として、教育研究活動の一層の水準の向上に努めること。</p> <p>2. 双方の大学から研究指導教員を選出する際は、専攻分野に関して高度の専門性が求められる博士後期課程の目的を踏まえ、学生が志向する研究分野に関する実質的な指導を行うことができる体制を構築すること。</p> <p>3. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>研究指導において最低限行われるべき内容である、 ①1年次の「口頭試問」 ②2年次の「Poster Presentation」 ③留学先における研究（最短6か月から1年間） ④3年次の「最終年次研究報告会」 ⑤博士論文執筆 ⑥最終的な口頭試問の実施については、両大学ですでに確認されている。また、学生に対しては、ガイダンスでこれらの内容を通知した。(29)</p> <p>研究指導教員選出の際は、専攻長及びアカデミックコーディネーターが、学生が志向する研究分野や内容を聴取し、学際的な共同研究の観点も踏まえつつ、効果的な研究指導が行われることを事前に十分検証した上で行うことにした。(29)</p> <p>協定書の締結にあたり、申請書に示した基本的な学務条項について記載した。また、研究指導に係る詳細については、ガイダンスにおいて周知した。(29)</p>	

<p>設置時 (28年11月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻) 国際連携専攻については、両大学の入学資格を満たす必要があることから、既設の専攻と比べて要件が厳格となり敬遠されることが想定される。 本専攻の継続的な運営に支障が生じないよう、入学希望者のニーズを踏まえつつ、学生確保に最善を尽くすこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本専攻への応募に関心を示した学生に対して、応募前に面談し、本専攻の概要、入学資格、履修科目、修了要件などを説明することにより、本専攻への理解を促した。 連携外国大学における研究室の確保に当たっては、合同運営委員会が積極的に仲介し、希望に添った研究を実施できる適切な連携先の確保に努めた。(29)</p>	
-------------------------	--	-------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<情報学部 自然情報学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>名古屋大学では、学内共同教育研究施設として「高等教育研究センター」を設置し、高等教育に関する専門的・実践的研究のもと、各種の教育改善支援を実施している。</p> <p>また、情報学部では、FDは学部執行部と教務委員会を主体として企画し、授業評価アンケートや教授会の前に講師を招いて実施する。</p> <p>さらに、全学的な取組みとして、Eラーニング研修において、「研究倫理教育」、「情報セキュリティ研究・自己点検」、「個人情報保護」、「公的資金の使用」等を全員が受講している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>執行部会議及び教務委員会は、それぞれ夏休みなどを除いて原則として毎月1回開催し、FDに関する事項を随時審議する。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生による授業評価アンケートに関する事項</li><li>・ FDに関する事項</li></ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本学新任教員研修FDへの参加</li><li>・ 新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）</li></ul>
---

また、以下の内容の実施を検討中

- ・学生による授業評価アンケートの実施（各学期末）
- ・授業アンケート及び教員自己評価結果に基づく授業方法改善のためのFDの開催（4月）
- ・教育目標及びシラバスの対比評価の実施（4月）
- ・シラバスの点検（12月）
- ・教授会の前に行うテーマ別FD
- ・研究費の適切な使用について
- ・研究室訪問型ハラスメント防止研修
- ・知的財産権及び秘密情報管理等について
- ・外国人客員教員の英語によるFD

b 実施方法

- ・本学新任教員研修FDへの参加

全学センターである高等教育研究センターの主催により、全学の新任教員を対象とした研修会を行った。各種職務の遂行に必要な基本情報及び授業で困ったときや改善したいときに参考となる情報を得る機会とした。

- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）

新入生ガイダンスを開催し、本学部の教育目標、カリキュラム及び修了要件を周知するとともに、新入生教育意識調査アンケートを実施し、その結果をFDに反映させる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・本学新任教員研修FDへの参加

平成29年4月開催に情報学部新任教員2名が参加

- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）

平成29年4月開催に専任教員多数が参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成29年度は開設年度のため、取組実績なし。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

少人数のセミナーを除く全講義科目で学生による授業評価を実施し、アンケート結果を教員にフィードバックして教育の質の向上に役立てる。実施時期は、原則として各期における最終の授業時に行う。各授業科目についてアンケートが実施されることは、事前に教員及び学生に通知する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、教員及び学生に公開することを原則とし、項目を選んで公開する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）



### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

申請時のシラバスの内容に相当する授業科目は漏れなく開講できており、初年度としてはほぼ設置の趣旨・目的を達成したと考えられる。  
今後も、さらに総合的な教育体制を整備し、本学部の一層の充実を図る。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

自己点検・評価の結果の公表は、本学部が完成年度を迎える平成33年3月以降を予定している。

##### b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

#### ③ 認証評価を受ける計画

学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報公表に関する事項

#### ○ 設置計画履行状況報告書

##### a ホームページに公表の有無

(  有 ・  無 )

##### b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

( 平成29年 6月 1日 )



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 名古屋大学

## (2) 大学名

名古屋大学

## (3) 大学の位置

〒464-8601  
愛知県名古屋市千種区不老町1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	( マツオ セイイチ ) 松尾 清一 (平成27年4月)		
理事	( ワタナベ ヨシヒト ) 渡辺 芳人 (平成24年4月)		
理事	( マツシタ ユウシュウ ) 松下 裕秀 (平成27年4月)		
理事	( キムラ ショウゴ ) 木村 彰吾 (平成27年4月)		
理事	( ザイマ シゲアキ ) 財満 鎮明 (平成29年4月)		
理事	( タカハシ マサヒデ ) 高橋 雅英 (平成29年4月)		
理事	( イソガイ ケイスケ ) 磯谷 桂介 (平成29年1月)		
理事	( ゴウ ミチコ ) 郷 通子 (平成27年4月)		

学部長	(ムラセ ヒロシ) 村瀬 洋 (平成29年4月)		
学科長	(ナカムラ トシヤ) 中村 登志哉 (平成29年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
情報学部 人間・社会 情報学科 学士(情報学)	学際領域	4年	38人	第3年次 4人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	38 ( - ) [ - ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		1.02 倍	
志願者数	162 ( - ) [ 3 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
受験者数	135 ( - ) [ 2 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
合格者数	42 ( - ) [ 1 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
B 入学者数	39 ( - ) [ 1 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.02									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	39 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
計	39 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	39 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
			平成32年度	人	人		
平成32年度 入学者	人	人	平成32年度	人	人		%
合 計	39 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下    ・学力不足    ・他の教育機関への入学・転学    ・海外留学  
                   ・就職    ・学生個人の心身に関する事情    ・家庭の事情    ・除籍    ・その他

## 2 授業科目の概要

<情報学部 人間・社会情報学科>

### (1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
全学 教育 科目	基礎 セミナー 基礎セミナーA	1前		2								兼 3	
	基礎セミナーB	1後		2								兼 3	
	英語（基礎）	1前		1			1					兼 1	
	英語（中級）	1後		1			2					兼 1	
	英語（コミュニケーション）	1後		2			1					兼 2	
	英語（上級）	2前		2			2					兼 1	
	ドイツ語1	1前		1.5		1						兼 2	
	ドイツ語2	1前		1.5		1						兼 2	
	ドイツ語3	1後		1.5		1						兼 2	
	ドイツ語4	1後		1.5		1						兼 2	
	フランス語1	1前		1.5								兼 3	
	フランス語2	1前		1.5								兼 3	
	フランス語3	1後		1.5								兼 3	
	フランス語4	1後		1.5								兼 3	
	ロシア語1	1前		1.5								兼 1	
	ロシア語2	1前		1.5								兼 1	
	ロシア語3	1後		1.5								兼 1	
	ロシア語4	1後		1.5								兼 1	
	中国語1	1前		1.5								兼 3	
	中国語2	1前		1.5								兼 3	
	中国語3	1後		1.5								兼 3	
	中国語4	1後		1.5								兼 3	
	スペイン語1	1前		1.5								兼 2	
	スペイン語2	1前		1.5								兼 2	
	スペイン語3	1後		1.5								兼 2	
	スペイン語4	1後		1.5								兼 2	
	朝鮮・韓国語1	1前		1.5								兼 1	
	朝鮮・韓国語2	1前		1.5								兼 1	
	朝鮮・韓国語3	1後		1.5								兼 1	
	朝鮮・韓国語4	1後		1.5								兼 1	
	日本語（口頭表現）1	1前		1.5								兼 1	
	日本語（口頭表現）2	1後		1.5								兼 1	
	日本語（文章表現）1	1前		1.5								兼 2	
日本語（文章表現）2	1後		1.5								兼 1		



言語文化Ⅱ	特別英語セミナー（ライティング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（ライティング）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	3前	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（リーディング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（リーディング）2	3後	2							兼 1
	中級ドイツ語1	2前	2							兼 1
	中級ドイツ語2	2後	2							兼 1
	中級フランス語1	2前	2							兼 2
	中級フランス語2	2後	2							兼 2
	中級ロシア語1	2前	2							兼 1
	中級ロシア語2	2後	2							兼 1
	中級中国語1	2前	2							兼 3
	中級中国語2	2後	2							兼 3
	中級スペイン語1	2前	2							兼 2
	中級スペイン語2	2後	2							兼 2
	中級朝鮮・韓国語1	2前	2							兼 1
	中級朝鮮・韓国語2	2後	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）1	2前	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）2	2後	2							兼 1
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前	2							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1							兼 3
文系基礎科目	哲学	1前	2							兼 1
	歴史学	1後	2							兼 3
	文学	1後	2							兼 3
	地理学	1前	2							兼 3
	社会学	1前	2							
	心理学Ⅰ	1前	2		1	1				
	心理学Ⅱ	1前	2							兼 1
	教育学	2前	2							兼 2
	日本国憲法	1後	2							兼 2
	法学	1前	2							兼 3
	政治学	2前	2							兼 1
	経済学A	1前	2							兼 3
	経済学B	1後	2							兼 2
	経営学	2前	2							兼 2
	国際関係論	1後	2							兼 2
	国際開発学	1前	2							兼 3
	比較文化論	1後	2							兼 1
	比較教育論	1前	2							兼 1
	統計学	1後	2							兼 2

理系基礎科目	微分積分学Ⅰ	1前	2						兼 <sup>3</sup> / <sub>2</sub>	担当教員の追加(29)
	微分積分学Ⅱ	1後	2						兼 <sup>3</sup> / <sub>2</sub>	担当教員の追加(29)
	線形代数学Ⅰ	1前	2						兼 <sup>3</sup> / <sub>2</sub>	担当教員の追加(29)
	線形代数学Ⅱ	1後	2						兼 <sup>3</sup> / <sub>2</sub>	担当教員の追加(29)
	数学入門	1前	2						兼 1	
	物理学入門	1前	2						兼 1	
	化学入門	1前	2						兼 1	
	生物学入門	1前	2						兼 <sup>2</sup> / <sub>1</sub>	担当教員の追加(29)
	地球科学入門	1前	2				1			
	情報リテラシー(文系)	1前	2		1				兼 1	
文系教養科目	生と死の人間学	2後	2						兼 2	
	現代社会の思想的課題	2後	2			1				
	科学・技術の哲学	2前	2			1				
	ことばの不思議	2後	2						兼 2	
	文化を読む	1後	2						兼 1	
	表象と文化	2前	2						兼 2	
	芸術と人間	2前	2			1				
	社会変動と人間生活	2後	2			1				
	人間と行動	1後	2		1					
	現代社会と教育	2前	2						兼 2	
	教育と発達の心理	1後	2						兼 1	
	現代社会と法	2前	2						兼 3	
	民主主義の歴史と現在	1後	2						兼 2	
	市場経済と社会	2前	2						兼 1	
	産業社会と企業	1後	2						兼 2	
	グローバル化時代の国際社会	2後	2						兼 1	
	開発の光と影	1後	2						兼 1	
人間と環境	2前	2				1				
社会と環境	2前	2		1		4			担当教員の職位の変更(29) 担当 丸山康司(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可	
理系教養科目	図情報とコンピュータ	2後	2						兼 1	
	情報メディアとコミュニケーション	2後	2		1	1				
	システム工学入門	1後	2						兼 2	
	情報リテラシー(理系)	1前	2						兼 2	
	情報科学入門	1前	2						兼 2	
	現代数学への流れ	2後	2						兼 2	
	先端材料と物性物理	2後	2						兼 1	
	エレクトロニクスと物性科学	1後	2						兼 1	
	物理現象の科学	1前	2						兼 1	
	原子・分子の科学	2後	2						兼 2	

	物質世界の認識	1後		2							兼 2	
	物質と材料の科学	1後		2							兼 1	
	物質と科学	1後		2							兼 1	
	現代の生命科学	2後		2							兼 2	
	現代医療と生命科学	1前		2							兼 1	
	生涯健康と医学	2後		2							兼 1	
	健康増進科学	2後		2							兼 1	
	遺伝子の世界	1後		2							兼 1	
	食と農の科学	1前		2							兼 2	
	動植物の科学	1後		2							兼 1	
	微生物の科学	2後		2							兼 2	
	バイオテクノロジー	2後		2							兼 2	
	地球惑星の科学	1前		2							兼 2	
	自然環境と人間	1後		2							兼 1	
	エネルギーと環境	2後		2							兼 1	
	自然環境と人間社会	1前		2							兼 2	
	環境問題と人間	1後		2							兼 2	
	都市と環境	1後		2							兼 1	
	大気水圏環境の科学	1前		2							兼 2	
	現代芸術論	2前		2			1				兼 1	
	芸術と人間精神	2前		2							兼 1	
	表象芸術論	2前		2							兼 1	
	音楽芸術論	2前		2							兼 2	
	科学・技術の倫理	2前		2		1						
	科学技術史	2前		2							兼 1	
	科学技術社会論	2前		2							兼 1	
	科学技術とジェンダー	2前		2							兼 1	
	宗教と人類文化	2前		2							兼 2	
	異文化論	2後		2							兼 1	
専門科目	スタートアップ科目	インフォマティクス1	1②	1			4	5	1		兼 7	
		インフォマティクス2	1②	1							兼 2	
		インフォマティクス3	1③	1							兼 8	
		インフォマティクス4	1④	1							兼 4	
		感じる情報学	1① 1②	1				5				時間割・講義室調整により開講学期を変更(29)
		情報の挑戦者・開拓者たち	1①	2			1				兼 2	
	情報科学技術の基礎となる	情報セキュリティとリテラシー1	1①	1							兼 3	
		情報セキュリティとリテラシー2	1②	1				1	1		兼 3	
		プログラミング1	1③	2				2			兼 3	
		プログラミング2	1④	2							兼 3	
		離散数学及び演習	2①		2						兼 2	
		論理設計及び演習1	2③		1						兼 1	
		論理設計及び演習2	2④		1						兼 1	
		情報理論	2③		1						兼 1	
		確率統計及び演習	2③		2						兼 1	

科目	アルゴリズム1	2③		1						兼 2	
	アルゴリズム2	2④		1						兼 2	
	システム数学及び演習1	2③		1						兼 3	
	システム数学及び演習2	2④		1						兼 3	
	線形代数学の発展1	2③		1						兼 1	
	線形代数学の発展2	2④		1						兼 1	
自然や社会の基礎となる科目として理	情報システムとしての自然1：生きる	2③		1						兼 5	
	情報システムとしての自然2：流れる	2④		1						兼 6	
	情報と国際社会	2①		1		1	3				
	人間の知・機械の知	2③		1		1					
	心の科学	2①		1		2	3				
	クリエイティブ・ネットワーキング	2①		1			1				
論理的に課題を発見・解決するための基礎となる科目	社会調査	2①		1		1	2 3				<p style="color: red;">担当教員の職位の変更 (29) 担当 丸山康司(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可</p>
	論理学1	2③	1			1				兼 3	
	論理学2a	2④		1		1					
	科学方法論	2④		1		1					
	複雑系科学の基礎	2①		1						兼 1	
	意思決定	2④		1						兼 2	
	データマイニング入門	2①	1				1			兼 2	
	情報創造	2①		1			2				
	問題解決・課題解決の科学1	2③		1			1			兼 1	
	問題解決・課題解決の科学2	2④		1						兼 1	
	シミュレーション・サイエンス1	2③		1						兼 4	
シミュレーション・サイエンス2	2④		1						兼 6		
(学部共通)のインターアクションのための科目	アカデミック・イングリッシュ	3②		2						兼 1	<p style="color: red;">家庭の事情により、就任 辞退(29)</p>
	アカデミック・ライティング	3②		2		1					
	マネジメント	3②		1						兼 1	
	情報倫理と法	3①	1			1				兼 2	
	PBL1	3②		2						兼 2	
	PBL2	3②		2						兼 6 7	
	PBL3	3②		2						兼 6 7	
	情報と職業1	3②		1		1					
情報と職業2	3②		1			1					
人間・社会情報	社会情報学序論1	2②		1		1	6				<p style="color: red;">担当教員の職位の変更 (29) 担当 丸山康司(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可</p>
	社会情報学序論2	2②		1		2 4	4 5				
	情報哲学	4①		1			1				

学科固有の専門科目

情報と倫理	3③	1			1
情報美学	4①	1			1
情報社会における福祉の哲学	2②	1			1
情報芸術論	2②	1			1
文化財情報論	3④	1			1
情報社会デザイン論	3①	1	1		
情報社会メディア論	2②	1		1	
ソーシャルメディアと観光・コミュニティ	3①	1			1
視覚情報処理	3④	1		1	
博物館展示情報論	3①	1		1	
メディアと国際社会	3④	1	1		
アジアのメディア	3③	1		1	
メディア社会論	3④	1		1	
メディア制度論	3④	1	1		
現代社会論	3③	1	1	2 3	
社会システム論	3①	1		1	
科学技術社会論	3③	1	1	4	
リスクガバナンス論	3④	1		1	
応用社会調査	2②	1	1	2 3	
社会情報系演習1	3①	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習2	3②	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習3	3③	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習4	3④	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習5	4①	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習6	4②	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習7	4③	1	4 3	11 12	1
社会情報系演習8	4④	1	4 3	11 12	1
認知心理学A	2②	1		1	
認知心理学B	2②	1		1	
認知心理学C	2②	1		1	
認知心理学D	2②	1		1	
社会心理学A	2②	1	1		
社会心理学B	2②	1	1		
社会心理学C	2②	1	1		
社会心理学D	2②	1	1		
脳と心A	2②	1		1	
脳と心B	2②	1		1	
認知科学A	2②	1	1	1	
認知科学B	2②	1	1	1	
認知科学C	2②	1	1		
認知科学D	2②	1	1		
認知科学E	2②	1		1	

担当教員の職位の変更  
(29)  
担当 丸山康司(教授)  
平成29年1月 教員審査済  
判定 可

担当教員の職位の変更  
(29)  
担当 丸山康司(教授)  
平成29年1月 教員審査済  
判定 可

担当教員の職位の変更  
(29)  
担当 丸山康司(教授)  
平成29年1月 教員審査済  
判定 可



(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{257} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡			
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡				
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡				
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡				
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡				
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	578,743 ㎡ ( 578,743 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	578,743 ㎡ ( 578,743 ㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	情報学部			96 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体	
	情報学部	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)		
	計	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)		
(6) 図書館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	24,829 ㎡		2,031 席		3,140,500 冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	9,229 ㎡		弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	千円
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	千円	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.06	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	135 38	学士(情報学)	1.02	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	38	学士(情報学)	1.02	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	59	学士(情報学)	1.11	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.05	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.01	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
工学部				—				昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—				
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度			
化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度			
物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度			
マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度			
電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度			
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度			
エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度			
環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度			
農学部				680				昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	平成18年度			
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度			
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度			

大学の名称	名古屋大学								備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
文学研究科								昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—				
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—				
人文学研究科							平成29年度 平成29年度			
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.03		愛知県名古屋市千種区不老町		
（博士後期課程）	3	61	—	61	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.86				

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員 入定	編入学員 入定	収容員 入定	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.83	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.06		
法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.87	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.84	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.51		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学) 修士(学術)	0.78	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(情報学) 修士(学術)	0.80		
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(情報学) 修士(学術)	1.42		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(情報学) 修士(学術)	0.66		
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
(博士後期課程)	3	10	—	10	修士(情報学) 修士(学術)	0.60		
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08	昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73		
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度	
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成29年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年より募集停止
機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年より募集停止
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33			

大学の名称	名古屋大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56				
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50				
工学研究科 化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		



大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60		
総合エネルギー専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14	平成9年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21	平成10年度		
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10	平成16年度		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
国際開発研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度 平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20	平成4年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—			
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学)	0.89	平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	24	—	74	修士(理学) 博士(環境学) 博士(理学)	0.42	平成13年度		
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.31	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学) 修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学)	1.00	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	49	修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学) 博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報科学研究科 計算機数理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度 平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
メディア科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			
社会システム情報学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平成15年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学) 博士(工学) 博士(学術)	—			

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士(創薬科学)	1.05	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.80			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
- ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報学部 人間・社会情報学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	米山 優	平成29年4月	インフォマティクス2※ 感じる情報学※						
専	教授	戸田山 和久	平成29年4月	科学・技術の倫理 インフォマティクス2※ 論理学1 論理学2b 科学方法論 アカデミック・ライティング 情報倫理と法※ 社会情報学序論1※ 情報哲学 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	教授	安田 孝美	平成29年4月	情報メディアとコミュニケーション インフォマティクス2※ 情報の挑戦者・開拓者たち 社会情報学序論2※ 情報社会デザイン論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	教授	中村 登志哉	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4 インフォマティクス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業1 メディアと国際社会 メディア制度論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						

専	教授	三輪 和久	平成29年4月	情報リテラシー (文系) 人間の知・機械の知 心の科学※ 認知科学A【隔年】 認知科学B【隔年】 認知科学C【隔年】 認知科学D【隔年】 認知科学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2 心理・認知科学基礎演習1 心理・認知科学基礎演習2 心理・認知科学演習1 心理・認知科学演習2 心理・認知科学演習3 心理・認知科学演習4 卒業研究						
専	教授	川口 潤	平成29年4月	インフォマティクス2※ 心の科学※ 認知心理学A【隔年】 認知心理学B【隔年】 心理・認知科学実験1						
専	教授	唐沢 (唐澤) 穰	平成29年4月	心理学 I 人間と行動 インフォマティクス2※ 心の科学※ 社会心理学A【隔年】 社会心理学B【隔年】 社会心理学C【隔年】 社会心理学D【隔年】 社会心理学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2 心理・認知科学基礎演習1 心理・認知科学基礎演習2 心理・認知科学演習1 心理・認知科学演習2 心理・認知科学演習3 心理・認知科学演習4 卒業研究						
専	准教授	小池 直人	平成29年4月	現代社会の思想的課題 社会情報学序論1 ※ 情報社会における福祉の哲学 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						

専	准教授	新美 倫子	平成29年4月	社会情報学序論1 ※ 文化財情報論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	秋庭 史典	平成29年4月	芸術と人間 現代芸術論 インフォマティク ス2※ 感じる情報学※ 情報創造 社会情報学序論1 ※ 情報美学 情報芸術論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	久木田 水生	平成29年4月	科学・技術の哲学 インフォマティク ス2※ 感じる情報学※ 情報セキュリティ とリテラシー2 情報創造 問題解決・課題解 決の科学1※ 社会情報学序論1 ※ 情報と倫理 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	加藤 ジェー ン	平成29年4月	プログラミング1 データマイニング 入門 社会情報学序論1 ※ 視覚情報処理 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	遠藤 守	平成29年4月	情報メディアとコ ミュニケーション 感じる情報学※ プログラミング1 クリエイティブ・ ネットワーキング 社会情報学序論2 ※ 情報社会メディア 論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						



専	准教授	後藤 明史	平成29年4月	情報と国際社会※						
専	准教授	小川 明子	平成29年4月	英語（中級） 英語（コミュニケーション） 英語（上級） インフォマティックス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業2 メディア社会論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	井原 伸浩	平成29年4月	英語（基礎） 英語（中級） 英語（上級） インフォマティックス2※ 情報と国際社会※ 社会情報学序論2※ アジアのメディア 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	河村 則行	平成29年4月	社会変動と人間生活 社会調査 社会情報学序論2※ 現代社会論 社会システム論 応用社会調査 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	丸山 康司	平成29年4月	社会と環境 社会調査 社会情報学序論2※ 現代社会論 科学技術社会論 応用社会調査 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究	専	教授	丸山 康司	平成29年4月	社会と環境 社会調査 社会情報学序論2※ 現代社会論 科学技術社会論 応用社会調査 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究	職位の変更 平成29年1月 AC教員審査済（29）

専	准教授	青木 聡子	平成29年4月	社会学 社会調査 社会情報学序論2 ※ 現代社会論 リスクガバナンス 論 応用社会調査 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	氏原 温	平成29年4月	地球科学入門 社会情報学序論1 ※ 博物館展示情報論 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究						
専	准教授	川合 伸幸	平成29年4月	感じる情報学※ 心の科学※ 認知科学A【隔年】 認知科学B【隔年】 認知科学E【隔年】 認知科学F【隔年】 認知科学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2 心理・認知科学基礎演習1 心理・認知科学基礎演習2 心理・認知科学演習1 心理・認知科学演習2 心理・認知科学演習3 心理・認知科学演習4 卒業研究						
専	准教授	北神 慎司	平成29年4月	人間と環境 感じる情報学※ 心の科学※ 認知心理学A【隔年】 認知心理学B【隔年】 認知心理学C【隔年】 認知心理学D【隔年】 認知心理学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2 心理・認知科学基礎演習1 心理・認知科学基礎演習2 心理・認知科学演習1 心理・認知科学演習2 心理・認知科学演習3 心理・認知科学演習4 卒業研究						

専	准教授	鈴木 敦命	平成29年4月	心理学 I インフォマティックス2※ 心の科学※ 脳と心A【隔年】 脳と心B【隔年】 認知心理学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2 心理・認知科学データ解析 心理・認知科学基礎演習1 心理・認知科学基礎演習2 心理・認知科学演習1 心理・認知科学演習2 心理・認知科学演習3 心理・認知科学演習4 卒業研究							
専	講師	浦田 真由	平成29年4月	インフォマティックス2※ 情報セキュリティとリテラシー2 ソーシャルメディアと観光・コミュニケーション 社会情報系演習1 社会情報系演習2 社会情報系演習3 社会情報系演習4 社会情報系演習5 社会情報系演習6 社会情報系演習7 社会情報系演習8 卒業研究							
専	助教	光松 秀倫	平成29年4月	認知科学演習 心理・認知科学実験1 心理・認知科学実験2							
兼担	教授	松原 洋	平成29年4月	微分積分学 I 微分積分学 II 数学入門 論理学1 論理学2a							
兼担	教授	吉信 康夫	平成29年4月	線形代数学 I 線形代数学 II 論理学2a							
兼担	教授	杉山 雄規	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※							

兼担	教授	時田 恵一郎	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※						
兼担	教授	吉田 久美	平成29年4月	情報システムとしての自然1：生きる※						
兼担	教授	太田 元規	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然1：生きる※ シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	古賀 伸明	平成29年4月	化学入門 物質と科学 シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	長岡 正隆	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	有田 隆也	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティクス2※ 複雑系科学の基礎						
兼担	教授	北 栄輔	平成29年4月	図情報とコンピュータ インフォマティクス2※ 情報の挑戦者・開拓者たち プログラミング2 情報システムとしての自然1：生きる※ 情報システムとしての自然2：流れる※ データマイニング入門 問題解決・課題解決の科学1※ 問題解決・課題解決の科学2 マネジメント PBL1						

兼担	教授	畔上 秀幸	平成29年4月	情報リテラシー (理系) シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	渡邊 崇	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1 ※						
兼担	教授	大岡 昌博	平成29年4月	基礎セミナーB 情報システムとしての自然2：流れる※						
兼担	教授	内山 知実	平成29年4月	情報リテラシー (文系) 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1 ※						
兼担	教授	栗本 英和	平成29年4月	意思決定※						
兼担	教授	酒井 正彦	平成29年4月	インフォマティックス1※						
兼担	教授	枝廣 正人	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティックス1※ 論理設計及び演習1 論理設計及び演習2						
兼担	教授	高田 広章	平成29年4月	インフォマティックス1※ PBL2 PBL3						
兼担	教授	関 浩之	平成29年4月	基礎セミナーA 離散数学及び演習 情報理論						
兼担	教授	結縁 祥治	平成29年4月	インフォマティックス1※ 論理学1 論理学2c						
兼担	教授	村瀬 勉	平成29年4月	インフォマティックス1※ 情報セキュリティ とリテラシー1						

兼担	教授	山本 雅基	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	教授	坂本 直史	平成29年4月	PBL2 PBL3			後任未定			平成29年3月 坂本直史教授就任辞退(29) 「後任未定」担当する 全科目に十分な数の担当 教員が配置されているた め、支障はない。
兼担	教授	村瀬 洋	平成29年4月	インフォマティッ クス3※ 情報の挑戦者・開 拓者たち 確率統計及び演習						
兼担	教授	外山 勝彦	平成29年4月	離散数学及び演習						
兼担	教授	石川 佳治	平成29年4月	基礎セミナーA インフォマティッ クス1※ データマイニング 入門						
兼担	教授	森 健策	平成29年4月	インフォマティッ クス3※						
兼担	教授	間瀬 健二	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティッ クス3※						
兼担	教授	長尾 確	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティッ クス3※						
兼担	教授	大平 英樹	平成29年4月	心理学の歴史と方 法1※【隔年】	兼担	教授	大平 英樹	平成29年4月	心理学の歴史と方 法1※【隔年】 心理学の歴史と方 法2※【隔年】	教育内容の充実のため担当 科目の追加(29)
兼担	教授	田邊 宏樹	平成29年4月	心理学の歴史と方 法2※【隔年】 心理・認知科学特 殊講義A1【隔年】 心理・認知科学特 殊講義A2【隔年】	兼担	教授	田邊 宏樹	平成29年4月	心理学の歴史と方 法1※【隔年】 心理学の歴史と方 法2※【隔年】 心理・認知科学特 殊講義A1【隔年】 心理・認知科学特 殊講義A2【隔年】	教育内容の充実のため担当 科目の追加(29)
兼担	教授	武田 一哉	平成29年4月	インフォマティッ クス3※ システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	教授	井上 進	平成29年4月	歴史学						
兼担	教授	町田 健	平成29年4月	文学	兼担	准教授	田村 加代子	平成29年4月	文学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	塩村 耕	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉田 純	平成29年4月	生と死の人間学	担当教員の変更(29)



兼担	教授	田邊 靖博	平成29年4月	物質世界の認識						
兼担	教授	堀 勝	平成29年4月	エレクトロニクスと物性科学						
兼担	教授	佐宗 章弘	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	教授	社本 英二	平成29年4月	物理現象の科学						
兼担	教授	服部 東穂	平成29年4月	動植物の科学						
兼担	教授	浅川 晋	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	戸丸 信弘	平成29年4月	環境問題と人間						
兼担	教授	饗場 浩文	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	吉田 伸生	平成29年4月	現代数学への流れ						
兼担	教授	永尾 太郎	平成29年4月	現代数学への流れ	兼担	教授	太田 啓史	平成29年4月	現代数学への流れ	担当教員の変更(29)
兼担	教授	宇佐見 晃一	平成29年4月	国際開発学						
兼担	教授	大坪 滋	平成29年4月	開発の光と影						
兼担	教授	山形 英郎	平成29年4月	国際開発学	兼担	教授	伊東 早苗	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語(基礎) 英語(中級)	兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語(中級)	担当教員の変更(29)
兼担	教授	東村 岳史	平成29年4月	国際開発学	兼担	准教授	日下 渉	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	藤井 たぎる	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	教授	胡 潔	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	田所 光男	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	教授	西川 智之	平成29年4月	中級ドイツ語1						



兼担	教授	水戸 博之	平成29年4月	中級スペイン語1 中級スペイン語2						
兼担	教授	涌井 隆	平成29年4月	英語 (コミュニケーション)						
兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語 (上級)	兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語 (上級)	担当教員の変更(29)
兼担	教授	浮葉 正親	平成29年4月	日本語 (口頭表現) 1 日本語 (文章表現) 1 日本語 (文章表現) 2 上級日本語 (文章表現) 1 上級日本語 (文章表現) 2						
兼担	教授	HAIG EDWARD	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 1	兼担	准教授	WATSON Alex	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 1	担当教員の変更(29)
兼担	教授	杉村 泰	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語1						
兼担	教授	星野 幸代	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	岡本 耕平	平成29年4月	地理学	兼担	准教授	伊賀 聖屋	平成29年4月	地理学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	加藤 尚史	平成29年4月	統計学						
兼担	教授	篠田 雅人	平成29年4月	大気水圏環境の科学						
兼担	教授	高橋 誠	平成29年4月	地理学						
兼担	教授	高村 ゆかり	平成29年4月	現代社会と法						
兼担	教授	角皆 潤	平成29年4月	大気水圏環境の科学						
兼担	教授	谷川 寛樹	平成29年4月	自然環境と人間社会						
兼担	教授	山本 裕二	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義						

兼担	教授	石田 浩司	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ						
兼担	教授	秋間 広	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義						
兼担	教授	竹之内 隆志	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ						
兼担	教授	山中 章弘	平成29年4月	自然環境と人間	兼担	教授	竹本 さやか	平成29年4月	自然環境と人間	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	BUSCEMI Francesco	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ インフォマティクス4※ 線形代数の発展1 線形代数の発展2						
兼担	准教授	中村 泰之	平成29年4月	意思決定※ シミュレーション・サイエンス1※						
兼担	准教授	青木 摂之	平成29年4月	生物学入門 情報システムとしての自然1：生きる※						
兼担	准教授	張 賀東	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス2※						
兼担	准教授	永峰 康一郎	平成29年4月	情報セキュリティとリテラシー1 情報システムとしての自然1：生きる※						
兼担	准教授	鈴木 麗瑠	平成29年4月	基礎セミナーA 情報セキュリティとリテラシー2 プログラミング1 クリエイティブ・ネットワーキング						
兼担	准教授	鈴木 泰博	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然2：流れる※						
兼担	准教授	安田 耕二	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス2※						
兼担	准教授	西田 直樹	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2						
兼担	准教授	本田 晋也	平成29年4月	インフォマティクス1※ PBL2 PBL3						
兼担	准教授	吉田 則裕	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	准教授	森崎 修司	平成29年4月	情報リテラシー(理系)						

兼担	准教授	中澤 巧爾	平成29年4月	論理学1 論理学2c						
兼担	准教授	嶋田 創	平成29年4月	情報セキュリティ とリテラシー1 情報セキュリティ とリテラシー2						
兼担	准教授	荻野 正雄	平成29年4月	プログラミング1 プログラミング2						
兼担	准教授	倉地 亮	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	准教授	井手 一郎	平成29年4月	線形代数学Ⅱ インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	出口 大輔	平成29年4月	線形代数学Ⅰ インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	小川 泰弘	平成29年4月	情報セキュリティ とリテラシー2 プログラミング1 プログラミング2						
兼担	准教授	松原 茂樹	平成29年4月	インフォマティッ クス3※						
兼担	准教授	片平 健太郎	平成29年4月	心理学の歴史と方 法1※【隔年】 心理学の歴史と方 法2※【隔年】 心理・認知科学特 殊講義B1【隔年】 心理・認知科学特 殊講義B2【隔年】						
兼担	准教授	竹内 栄二郎	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	宮島(山本) 千代美	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	歴史学						
兼担	准教授	畷部 俊也	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉武 純夫	平成29年4月	生と死の人間学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	文学	兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	加納 修	平成29年4月	表象と文化	兼担	准教授	栗田 秀法	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	宮地 朝子	平成29年4月	比較文化論	兼担	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	比較文化論	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文化を読む	兼担	教授	釘貫 亨	平成29年4月	文化を読む	担当教員の変更(29)

兼担	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	ことばの不思議	兼担	教授	滝川 睦	平成29年4月	ことばの不思議	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	教育と発達心理学	兼担	教授	平石 賢二	平成29年4月	教育と発達心理学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	内田 良	平成29年4月	教育学	兼担	准教授	ARANI Mohammad reza	平成29年4月	教育学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	五十嵐 祐	平成29年4月	心理学Ⅱ	兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	心理学Ⅱ	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	河野 明日香	平成29年4月	現代社会と教育						
兼担	准教授	宮木 康博	平成29年4月	現代社会と法						
兼担	准教授	佐藤 史人	平成29年4月	民主主義の歴史と現在						
兼担	准教授	古川 伸彦	平成29年4月	法学						
兼担	准教授	松中 学	平成29年4月	法学						
兼担	准教授	加藤 哲理	平成29年4月	政治学						
兼担	准教授	犬塚 篤	平成29年4月	経営学	兼担	准教授	宮崎 正也	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中屋 信彦	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	園田 正	平成29年4月	市場経済と社会	兼担	准教授	木越 義則	平成29年4月	市場経済と社会	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中村 さやか	平成29年4月	経済学A	兼担	教授	柳瀬 明彦	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	江夏 幾多郎	平成29年4月	経営学	兼担	講師	高橋 秀徳	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	小堀 聡	平成29年4月	経済学B	兼担	講師	伊藤 カンナ	平成29年4月	経済学B	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	荒渡 良	平成29年4月	経済学A	兼担	准教授	玉井 寿樹	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	井原 邦夫	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	松本 浩典	平成29年4月	物理学入門	兼任	講師	小川 信之	平成29年4月	物理学入門	担当教員の追加(29)

兼担	准教授	松浦 能行	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	植田 研二	平成29年4月	先端材料と物性物理						
兼担	准教授	稲垣 伸吉	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	准教授	加地 範匡	平成29年4月	原子・分子の科学						
兼担	准教授	樫田 啓	平成29年4月	物質世界の認識						
兼担	准教授	上口 美弥子	平成29年4月	バイオテクノロジー						
兼担	准教授	上口 智治	平成29年4月	遺伝子の世界						
兼担	准教授	石川 明	平成29年4月	食と農の科学						
兼担	准教授	村瀬 潤	平成29年4月	環境問題と人間						
兼担	准教授	山本 一清	平成29年4月	自然環境と人間社会						
兼担	准教授	岩崎 雄吾	平成29年4月	バイオテクノロジー						
兼担	准教授	村井 篤嗣	平成29年4月	食と農の科学	兼担	准教授	土井 一行	平成29年4月	食と農の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	笠井 直美	平成29年4月	中級中国語2						
兼担	准教授	SAVELIEV IGOR	平成29年4月	ロシア語1 ロシア語2 ロシア語3 ロシア語4 中級ロシア語1 中級ロシア語2						
兼担	准教授	西村 秀人	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語2						
兼担	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2						
兼担	准教授	渡辺 美樹	平成29年4月	英語(コミュニケーション)						

兼担	准教授	WEEKS Mark Charles	平成29年4月	特別英語セミナー (プレゼンテーション) 1 特別英語セミナー (プレゼンテーション) 2	兼担	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー (プレゼンテーション) 1 特別英語セミナー (プレゼンテーション) 2	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	CROSS Jeremy david	平成29年4月	特別英語セミナー (リーディング) 1 特別英語セミナー (リーディング) 2	兼担	准教授	NUSKE Kyle david	平成29年4月	特別英語セミナー (リーディング) 1	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	古田 香織	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4 中級フランス語1 中級フランス語2						
兼担	准教授	山口 庸子	平成29年4月	中級ドイツ語2						
兼担	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	中級フランス語1						
兼担	准教授	新井 美佐子	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	准教授	志波 彩子	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語1						
兼担	准教授	俵山 雄司	平成29年4月	日本語(口頭表現) 2 日本語(文章表現) 1						
兼担	准教授	勝川 裕子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2						
兼担	准教授	宇都木 昭	平成29年4月	朝鮮・韓国語1 朝鮮・韓国語2 朝鮮・韓国語3 朝鮮・韓国語4 中級朝鮮・韓国語1 中級朝鮮・韓国語2						
兼担	准教授	山中 佳子	平成29年4月	地球惑星の科学						
兼担	准教授	涌田 幸宏	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	齋藤 輝幸	平成29年4月	都市と環境						
兼担	准教授	平原 靖大	平成29年4月	地球惑星の科学	兼担	教授	鷺谷 威	平成29年4月	地球惑星の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	増沢 陽子	平成29年4月	日本国憲法						

兼担	准教授	奥貫 圭一	平成29年4月	地理学						
兼担	准教授	野村 康	平成29年4月	民主主義の歴史と現在						
兼担	准教授	中野 牧子	平成29年4月	統計学						
兼担	准教授	片山 敬章	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	兼担	教授	押田 芳治	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	黒田 健介	平成29年4月	エネルギーと環境	兼担	准教授	丹羽 健	平成29年4月	エネルギーと環境	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	松宮 弘明	平成29年4月	物質と材料の科学	兼担	教授	元廣 友美	平成29年4月	物質と材料の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)2 特別英語セミナー(リーディング)1	兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)2 特別英語セミナー(リーディング)1	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	BAUMERT Nicolas	平成29年4月	中級フランス語2						
兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)1	兼担	准教授	TOMKINSON Fiona gail	平成29年4月	特別英語セミナー(ライティング)1	担当教員の変更(29)
					兼担	准教授	柴田 和久	平成29年4月	心理学の歴史と方法1※【隔年】 心理学の歴史と方法2※【隔年】	教育内容の充実のため教員の新規採用(29)
兼担	講師	木原 貴行	平成29年4月	論理学2a						
兼担	講師	伊藤 淳一	平成29年4月	原子・分子の科学						
兼担	講師	横山 慶子	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ						
兼担	講師	松井 裕美	平成29年4月	表象と文化	兼担	教授	阿部 泰郎	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	助教	笹原 和俊	平成29年4月	PBL1						
兼担	助教	松原 豊	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼任	講師	小出 俣子	平成29年4月	アカデミック・イングリッシュ						
兼任	講師	後藤 憲秋	平成29年4月	情報倫理と法※						

兼任	講師	植村 元雄	平成29年4月	情報倫理と法※						
兼任	講師	馬淵 浩一	平成29年4月	科学技術史						
兼任	講師	竹内 創	平成29年4月	現代芸術論						
兼任	講師	梶田 美香	平成29年4月	音楽芸術論						
兼任	講師	村上 泰介	平成29年4月	表象芸術論						
兼任	講師	齋藤 滋	平成29年4月	宗教と人類文化						
兼任	講師	本村 耐樹	平成29年4月	宗教と人類文化						
兼任	講師	井上 研	平成29年4月	異文化論						
兼任	講師	竹下 至	平成29年4月	科学技術社会論						
兼任	講師	森本 頼子	平成29年4月	音楽芸術論						
兼任	講師	鈴木 秀憲	平成29年4月	科学技術とジェンダー						
					兼任	教授	杉田 護	平成29年4月	生物学入門	担当教員の追加(29)
					兼任	講師	谷川 好男	平成29年4月	線形代数学 I 線形代数学 II	担当教員の追加(29)
					兼任	講師	大島 和幸	平成29年4月	微分積分学 I 微分積分学 II	担当教員の追加(29)



- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
5	16	1	1	23	8	15	1	1	25	6	15	1	1	23
(8)	(15)	(1)	(1)	(25)						[ 1 ]	[ Δ1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
  - ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1		該当なし							
2									
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1		該当なし							
2									
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計(A) + (C)		後任補充状況の集計(B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)	①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修 科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択 科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由 科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計 科目	計	科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (27年6月)	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻)</p> <p>1. 養成する人材像が一般的・包括的な記述となっており、このことからディプロマポリシーも明確ではない。国際連携教育課程制度の趣旨は、我が国の大学と外国の大学が、双方の強みを活かし、また、補完しあいながらより充実した教育研究を行うことであることを踏まえ設置計画の履行に当たっては以下について留意すること。</p> <p>(1) 社会一般や入学を希望する学生に対して、国際連携教育課程制度を通じて養成される人材がどのような専門分野で活躍するかなどを具体的に示すこと。特に、ディプロマポリシーにある「国際的共同研究を推進」について具体的に明示すること。</p>	<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>(1) 医学分野において従来からの個別化医療とともに、Genome解析手法を加え、より診断技術の精度を上げた precision medicine (精密医療) を推進するため、本学における神経がん融合研究、アデレード大学における臨床と結びついたトランスレーショナルリサーチといった両大学の特色を相互補完的に取り入れたカリキュラムに基づく国際連携教育課程制度を通じて養成される人材は、医学分野、特に基礎医学研究と観察的・介入的臨床研究を融合したトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する人材であり、ディプロマ・ポリシーに以下(参考1)のとおり追記して示すこととした。</p> <p>また、養成される人材の例として、①日本とオーストラリアの精神医学的疾患の特徴と研究体制を十分に把握し、この2国を含む複数国を巻き込んだ国際共同治験をリードする臨床医学研究者、②がん研究領域で研究者間の国際的関係を構築し、各国のがん研究の連携を図り、全体として世界のがん研究をリードする基礎医学研究者、③日本で高齢化社会に対する各種先駆的な取組に触れ、医学的見地から必要とされる技術について理解し、日本とオーストラリ</p>

アを含む世界各国で医学応用分野で指導的立場となる産業界リーダー、をホームページに掲載して社会一般や入学希望者に示すとともに、入学時全体ガイダンスにおいて入学者にも提示した。

さらに、ディプロマ・ポリシーに掲げる各項目については、論文審査以外にも学生から年次レポートを提出させ、指導教員と合同運営委員会によって評価・確認を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学位審査・学位授与が行われるようにした。

(参考1)

○ディプロマ・ポリシー

「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造性に富み、多様な学問的素養を身に付け、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する。

(28)

(2) 養成する人材像やディプロマポリシーを明確化するには、アドミッションポリシーとして、どのような人材を求めているかをより具体的に示し、2つのポリシーの対応関係についても留意すること。その際、「国際的に活躍する強い意欲」の解釈に幅が出ないように、入学者選抜における判断基準を定めるなど連携外国大学を含めた選考全体の意思疎通を十分に図ること。

(2) 本専攻において求める人材について、ディプロマ・ポリシーに追記したトランスレーショナルリサーチ、また、加速度的な高齢化社会に対応できる医工連携を含めた異分野連携を進めるため、アドミッション・ポリシーに以下(参考2)のとおり追記して示すこととした。

また、アドミッション・ポリシーに沿った入学動機を備えた学生であるか適性を評価するために、書類審査と口頭試問を行うとともに、基軸となる英語能力が入学選抜の基準を満たしているかTOEFL iBT等のスコアについて基準を設け、専攻全体で統一した意志疎通のもと入学審査を行っている。

(参考2)

○アドミッション・ポリシー

① 人間に対する共感と深い洞察力を持つ。

② 知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。

③ 広い視野を持ち、物事を多面的に捉えることができる。

④ 協調性があり、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する強い意欲がある。

(3) カリキュラムポリシーについても、上記を踏まえつつ、対応関係に齟齬が生じないように留意すること。

2. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。

3. 連携外国大学の教員組織について、本専攻の教育研究の目的を十分に果たし得る体制となっていることについて、社会一般や入学を希望する学生に対して、あらかじめ明示すること。

⑤ 独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。  
⑥ 異分野連携によるイノベーションの創出を行う資質を持つ。  
(28)

(3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーへの対応を踏まえ、トランスレーショナルリサーチについて、以下(参考3)のとおり追記して示すこととした。

このカリキュラム・ポリシーに沿って、トランスレーショナルリサーチの知識・技術・倫理に加え、国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授する講義を設けるなど、国際的視野と国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標としたカリキュラムを作成した。

(参考3)

○カリキュラム・ポリシー  
「世界トップ大学同士の相互補完的協同教育により、高い倫理性、科学的論理性を修得させ、幅広い学問的素養を身に付けさせ、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける倫理と国際的共同研究の組織構築の戦略手法を学ばせること」

(28)

年間の学修計画書作成にあたっては、学生が既に身につけている知識、スキルや具体的な研究分野等に応じて、各指導教員から学生に対して履修モデル等を示しつつきめ細かな指導を行っている。また、成績評価基準についてはシラバスに記載するとともに、各指導教員が学生に対して個別に説明することとした。(28)

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域と臨床医学領域から幅広い専門分野を設定し、その医学研究領域をカバーする専任教員を有する教員組織についてシラバスとともに配付した。また、国際連携専攻入学時全体ガイダンスの中で、入学者に対して詳細に説明した。(28)

平成28年10月、連携外国大学の教員組織をホームページに掲載した。(29)

左記にあわせて、平成28年10月末までに連携外国大学の教員組織をホームページに掲載する。(28)

	<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>		<p>連携外国大学との調整を行う教員は、英語能力が高く、博士課程の学生を指導するのに十分な研究業績と国際経験を有するべきであると考え、オーストラリア国籍を有するとともに、カナダのSaskatchewan大学でBiologyの博士号、イギリスのCambridge大学で発行される英語教員免許を有し、オーストラリアのMonash大学薬学部でAssociate Professorとして薬物立体構造解析の研究を行っていた経歴を持つ教員を配置した。また、業務遂行を円滑に行うために語学能力の優れた専属秘書を配置し、体制を強化した。(28)</p>	
<p>設置時 (28年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する理学研究科名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻)</p> <p>1. 本専攻に置く博士後期課程の教育を研究指導のみによって行うのであれば、双方の大学が同種の学位を授与するに当たって求めている標準的な要件を踏まえつつ、本専攻において行われる研究指導において最低限行われるべき内容や要件を協定書等において明確にすること。その上で、国際的に通用する質を備える専攻として、教育研究活動の一層の水準の向上に努めること。</p> <p>2. 双方の大学から研究指導教員を選出する際は、専攻分野に関して高度の専門性が求められる博士後期課程の目的を踏まえ、学生が志向する研究分野に関する実質的な指導を行うことができる体制を構築すること。</p> <p>3. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>研究指導において最低限行われるべき内容である、 ①1年次の「口頭試問」 ②2年次の「Poster Presentation」 ③留学先における研究（最短6か月から1年間） ④3年次の「最終年次研究報告会」 ⑤博士論文執筆 ⑥最終的な口頭試問の実施については、両大学ですでに確認されている。また、学生に対しては、ガイダンスでこれらの内容を通知した。(29)</p> <p>研究指導教員選出の際は、専攻長及びアカデミックコーディネーターが、学生が志向する研究分野や内容を聴取し、学際的な共同研究の観点も踏まえつつ、効果的な研究指導が行われることを事前に十分検証した上で行うことにした。(29)</p> <p>協定書の締結にあたり、申請書に示した基本的な学務条項について記載した。また、研究指導に係る詳細については、ガイダンスにおいて周知した。(29)</p>	

<p>設置時 (28年11月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻) 国際連携専攻については、両大学の入学資格を満たす必要があることから、既設の専攻と比べて要件が厳格となり敬遠されることが想定される。 本専攻の継続的な運営に支障が生じないよう、入学希望者のニーズを踏まえつつ、学生確保に最善を尽くすこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本専攻への応募に関心を示した学生に対して、応募前に面談し、本専攻の概要、入学資格、履修科目、修了要件などを説明することにより、本専攻への理解を促した。 連携外国大学における研究室の確保に当たっては、合同運営委員会が積極的に仲介し、希望に添った研究を実施できる適切な連携先の確保に努めた。(29)</p>	
-------------------------	--	-------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）



## 7 その他全般的事項

<情報学部 人間・社会情報学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

名古屋大学では、学内共同教育研究施設として「高等教育研究センター」を設置し、高等教育に関する専門的・実践的研究のもと、各種の教育改善支援を実施している。

また、情報学部では、FDは学部執行部と教務委員会を主体として企画し、授業評価アンケートや教授会の前に講師を招いて実施する。

さらに、全学的な取組みとして、Eラーニング研修において、「研究倫理教育」、「情報セキュリティ研究・自己点検」、「個人情報保護」、「公的資金の使用」等を全員が受講している。

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

執行部会議及び教務委員会は、それぞれ夏休みなどを除いて原則として毎月1回開催し、FDに関する事項を随時審議する。

##### c 委員会の審議事項等

- ・ 学生による授業評価アンケートに関する事項
- ・ FDに関する事項

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- ・ 本学新任教員研修FDへの参加
- ・ 新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）

また、以下の内容の実施を検討中

- ・学生による授業評価アンケートの実施（各学期末）
- ・授業アンケート及び教員自己評価結果に基づく授業方法改善のためのFDの開催（4月）
- ・教育目標及びシラバスの対比評価の実施（4月）
- ・シラバスの点検（12月）
- ・教授会の前に行うテーマ別FD
- ・研究費の適切な使用について
- ・研究室訪問型ハラスメント防止研修
- ・知的財産権及び秘密情報管理等について
- ・外国人客員教員の英語によるFD

#### b 実施方法

- ・本学新任教員研修FDへの参加  
 全学センターである高等教育研究センターの主催により、全学の新任教員を対象とした研修会を行った。各種職務の遂行に必要な基本情報及び授業で困ったときや改善したいときに参考となる情報を得る機会とした。
- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）  
 新入生ガイダンスを開催し、本学部の教育目標、カリキュラム及び修了要件を周知するとともに、新入生教育意識調査アンケートを実施し、その結果をFDに反映させる。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・本学新任教員研修FDへの参加  
 平成29年4月開催に情報学部新任教員2名が参加
- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）  
 平成29年4月開催に専任教員多数が参加

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成29年度は開設年度のため、取組実績なし。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

少人数のセミナーを除く全講義科目で学生による授業評価を実施し、アンケート結果を教員にフィードバックして教育の質の向上に役立てる。実施時期は、原則として各期における最終の授業時に行う。各授業科目についてアンケートが実施されることは、事前に教員及び学生に通知する。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、教員及び学生に公開することを原則とし、項目を選んで公開する。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

申請時のシラバスの内容に相当する授業科目が漏れなく開講できており、初年度としてはほぼ設置の趣旨・目的を達成したと考えられる。

今後も、さらに総合的な教育体制を整備し、本学部の一層の充実を図る。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

自己点検・評価の結果の公表は、本学部が完成年度を迎える平成33年3月以降を予定している。

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(  有 ・  無 )

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

( 平成29年 6月 1日 )



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設 置 者

国立大学法人 名古屋大学

## (2) 大 学 名

名古屋大学

## (3) 大学の位置

〒464-8601  
愛知県名古屋市千種区不老町1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	( マツオ セイイチ ) 松 尾 清 一 (平成27年4月)		
理 事	( ワタナベ ヨシヒト ) 渡 辺 芳 人 (平成24年4月)		
理 事	( マツシタ ユウシュウ ) 松 下 裕 秀 (平成27年4月)		
理 事	( キムラ ショウゴ ) 木 村 彰 吾 (平成27年4月)		
理 事	( ザイマ シゲアキ ) 財 満 鎮 明 (平成29年4月)		
理 事	( タカハシ マサヒデ ) 高 橋 雅 英 (平成29年4月)		
理 事	( イソガイ ケイスケ ) 磯 谷 桂 介 (平成29年1月)		
理 事	( ゴウ ミチコ ) 郷 通 子 (平成27年4月)		

学部長	(ムラセ ヒロシ) 村瀬 洋 (平成29年4月)		
学科長	(マセ ケンジ) 間瀬 健二 (平成29年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
情報学部 コンピュータ 科学科 学士(情報学)	学際領域	4年	59人	第3年次 2人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	59 ( - ) [ - ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		( ) ( ) [ ]		1.11 倍	
志願者数	145 ( - ) [ 7 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
受験者数	130 ( - ) [ 7 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
合格者数	67 ( - ) [ 2 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
B 入学者数	66 ( - ) [ 1 ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	1.11									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	66 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	
計	66 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。



(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	66 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
			平成32年度	人	人		
平成32年度 入学者	人	人	平成32年度	人	人		%
合 計	66 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<情報学部 コンピュータ科学科>

### (1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
全学 教育 科目	基礎 セミナー I	基礎セミナーA	1前	2			2					兼 1		
		基礎セミナーB	1後	2			1					兼 2		
	言語 文化 I	英語（基礎）	1前	1									兼 2	
		英語（中級）	1後	1									兼 3	
		英語（コミュニケーション）	1後	2									兼 3	
		英語（上級）	2前	2									兼 3	
		ドイツ語1	1前	1.5									兼 3	
		ドイツ語2	1前	1.5									兼 3	
		ドイツ語3	1後	1.5									兼 3	
		ドイツ語4	1後	1.5									兼 3	
		フランス語1	1前	1.5									兼 3	
		フランス語2	1前	1.5									兼 3	
		フランス語3	1後	1.5									兼 3	
		フランス語4	1後	1.5									兼 3	
		ロシア語1	1前	1.5									兼 1	
		ロシア語2	1前	1.5									兼 1	
		ロシア語3	1後	1.5									兼 1	
		ロシア語4	1後	1.5									兼 1	
		中国語1	1前	1.5									兼 3	
		中国語2	1前	1.5									兼 3	
		中国語3	1後	1.5									兼 3	
		中国語4	1後	1.5									兼 3	
		スペイン語1	1前	1.5									兼 2	
		スペイン語2	1前	1.5									兼 2	
		スペイン語3	1後	1.5									兼 2	
		スペイン語4	1後	1.5									兼 2	
		朝鮮・韓国語1	1前	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語2	1前	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語3	1後	1.5									兼 1	
		朝鮮・韓国語4	1後	1.5									兼 1	
		日本語（口頭表現）1	1前	1.5									兼 1	
		日本語（口頭表現）2	1後	1.5									兼 1	
	日本語（文章表現）1	1前	1.5									兼 2		
日本語（文章表現）2	1後	1.5									兼 1			

言語文化Ⅱ	特別英語セミナー（ライティング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（ライティング）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）1	3前	2							兼 1
	特別英語セミナー（プレゼンテーション）2	3後	2							兼 1
	特別英語セミナー（リーディング）1	3前	2							兼 2
	特別英語セミナー（リーディング）2	3後	2							兼 1
	中級ドイツ語1	2前	2							兼 1
	中級ドイツ語2	2後	2							兼 1
	中級フランス語1	2前	2							兼 2
	中級フランス語2	2後	2							兼 2
	中級ロシア語1	2前	2							兼 1
	中級ロシア語2	2後	2							兼 1
	中級中国語1	2前	2							兼 3
	中級中国語2	2後	2							兼 3
	中級スペイン語1	2前	2							兼 2
	中級スペイン語2	2後	2							兼 2
	中級朝鮮・韓国語1	2前	2							兼 1
	中級朝鮮・韓国語2	2後	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）1	2前	2							兼 1
	上級日本語（文章表現）2	2後	2							兼 1
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学講義	1前	2							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1							兼 3
	健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1							兼 3
文系基礎科目	哲学	1前	2							兼 1
	歴史学	1後	2							兼 3
	文学	1後	2							兼 3
	地理学	1前	2							兼 3
	社会学	1前	2							兼 1
	心理学Ⅰ	1前	2							兼 2
	心理学Ⅱ	1前	2							兼 1
	教育学	2前	2							兼 2
	日本国憲法	1後	2							兼 2
	法学	1前	2							兼 3
	政治学	2前	2							兼 1
	経済学A	1前	2							兼 3
	経済学B	1後	2							兼 2
	経営学	2前	2							兼 2
	国際関係論	1後	2							兼 2
	国際開発学	1前	2							兼 3
	比較文化論	1後	2							兼 1
比較教育論	1前	2							兼 1	
統計学	1後	2							兼 2	

理系基礎科目	微積分学Ⅰ	1前	2							兼 <sup>3</sup> <sub>2</sub>	担当教員の追加(29)	
	微積分学Ⅱ	1後	2							兼 <sup>3</sup> <sub>2</sub>		
	線形代数学Ⅰ	1前	2			1				兼 <sup>2</sup> <sub>1</sub>		
	線形代数学Ⅱ	1後	2			1				兼 <sup>2</sup> <sub>1</sub>		
	複素関数論	2前		2						兼 2		
	物理学基礎Ⅰ	1前	2							兼 1		
	物理学基礎Ⅱ	1後	2							兼 1		
	物理学実験	1前 2前	1.5							兼 1		時間割・講義室調整により配当年次を変更(29)
	化学基礎Ⅰ	1前		2						兼 1		
	生物学基礎Ⅰ	1前		2						兼 1		
	地球科学基礎Ⅰ	1前		2						兼 1		
文系教養科目	生と死の人間学	2後		2						兼 2		
	現代社会の思想的課題	2後		2						兼 1		
	科学・技術の哲学	2前		2						兼 1		
	ことばの不思議	2後		2						兼 2		
	文化を読む	1後		2						兼 1		
	表象と文化	2前		2						兼 2		
	芸術と人間	2前		2						兼 1		
	社会変動と人間生活	2後		2						兼 1		
	人間と行動	1後		2						兼 1		
	現代社会と教育	2前		2						兼 2		
	教育と発達の心理	1後		2						兼 1		
	現代社会と法	2前		2						兼 3		
	民主主義の歴史と現在	1後		2						兼 2		
	市場経済と社会	2前		2						兼 1		
	産業社会と企業	1後		2						兼 2		
	グローバル化時代の国際社会	2後		2						兼 1		
	開発の光と影	1後		2						兼 1		
人間と環境	2前		2						兼 1			
社会と環境	2前		2						兼 1			
理系教養科目	図情報とコンピュータ	2後		2						兼 1		
	情報メディアとコミュニケーション	2後		2						兼 2		
	システム工学入門	1後		2						兼 2		
	情報リテラシー(理系)	1前		2			1			兼 1		
	情報科学入門	1前		2		2						
	現代数学への流れ	2後		2						兼 2		
	先端材料と物性物理	2後		2						兼 1		
	エレクトロニクスと物性科学	1後		2						兼 1		
	物理現象の科学	1前		2						兼 1		
	原子・分子の科学	2後		2						兼 2		
	物質世界の認識	1後		2						兼 2		
	物質と材料の科学	1後		2						兼 1		
	物質と科学	1後		2						兼 1		

	現代の生命科学	2後		2						兼 2	
	現代医療と生命科学	1前		2						兼 1	
	生涯健康と医学	2後		2						兼 1	
	健康増進科学	2後		2						兼 1	
	遺伝子の世界	1後		2						兼 1	
	食と農の科学	1前		2						兼 2	
	動植物の科学	1後		2						兼 1	
	微生物の科学	2後		2						兼 2	
	バイオテクノロジー	2後		2						兼 2	
	地球惑星の科学	1前		2						兼 2	
	自然環境と人間	1後		2						兼 1	
	エネルギーと環境	2後		2						兼 1	
	自然環境と人間社会	1前		2						兼 2	
	環境問題と人間	1後		2						兼 2	
	都市と環境	1後		2						兼 1	
	大気水圏環境の科学	1前		2						兼 2	
	全学教養科目										
	現代芸術論	2前		2						兼 2	
	芸術と人間精神	2前		2						兼 1	
	表象芸術論	2前		2						兼 1	
	音楽芸術論	2前		2						兼 2	
	科学・技術の倫理	2前		2						兼 1	
	科学技術史	2前		2						兼 1	
	科学技術社会論	2前		2						兼 1	
	科学技術とジェンダー	2前		2						兼 1	
	宗教と人類文化	2前		2						兼 2	
	異文化論	2後		2						兼 1	
専門科目	スタートアップ科目										
	インフォマティックス1	1②	1			6	1			兼 7	
	インフォマティックス2	1②	1							兼 12	
	インフォマティックス3	1③	1			4	3			兼 1	
	インフォマティックス4	1④	1							兼 4	
	感じる情報学	1① <del>1②</del>		1						兼 5	時間割・講義室調整により開講学期を変更(29)
	情報の挑戦者・開拓者たち	1①	2			1				兼 2	
	情報科学技術の基礎となる科目										
	情報セキュリティとリテラシー1	1①	1			1	1			兼 1	
	情報セキュリティとリテラシー2	1②	1				2			兼 3	
	プログラミング1	1③	2				2			兼 3	
	プログラミング2	1④	2				2			兼 1	
	離散数学及び演習	2①	2			2					
	論理設計及び演習1	2③	1			1					
	論理設計及び演習2	2④	1			1					
	情報理論	2③	1			1					
	確率統計及び演習	2③	2			1					
	アルゴリズム1	2③	1				1			兼 1	
	アルゴリズム2	2④	1				1			兼 1	
	システム数学及び演習1	2③	1							兼 3	
	システム数学及び演習2	2④	1							兼 3	

	線形代数学の発展1	2③		1								兼 1
	線形代数学の発展2	2④		1								兼 1
解自然 するや ため の社 会を 基 礎と する 理	情報システムとしての自然1：生きる	2③		1								兼 5
	情報システムとしての自然2：流れる	2④		1								兼 6
	情報と国際社会	2①		1								兼 4
	人間の知・機械の知	2③		1								兼 1
	心の科学	2①		1								兼 5
	クリエイティブ・ネットワーキング	2①		1								兼 2
なる 理 的 に 課 題 を 発 見 ・ 解 決 す る た め の 基 礎 と	社会調査	2①		1								兼 3
	論理学1	2③	1			1	1					兼 2
	論理学2a	2④	1			1	1					
	科学方法論	2④		1								兼 1
	複雑系科学の基礎	2①		1								兼 1
	意思決定	2④		1								兼 2
	データマイニング入門	2①	1			1						兼 2
	情報創造	2①		1								兼 2
	問題解決・課題解決の科学1	2③		1								兼 2
	問題解決・課題解決の科学2	2④		1								兼 1
	シミュレーション・サイエンス1	2③		1								兼 4
	シミュレーション・サイエンス2	2④		1								兼 6
目 社 会 と の イ ン タ ラ ク シ ョ ン の た め の 科 学 部 共 通	アカデミック・イングリッシュ	3②		2								兼 1
	アカデミック・ライティング	3②		2								兼 1
	マネジメント	3②		1								兼 1
	情報倫理と法	3①	1									兼 3
	PBL1	3②		2								兼 2
	PBL2	3②		2		2 3 2 3	3		1			家庭の事情により、就任 辞退(29)
	PBL3	3②		2			3		1			
	情報と職業1	3②		1								
	情報と職業2	3②		1								兼 1
コ ン ピ ユ ー タ 科 学 科 固 有 の 専 門 科 目	ソフトウェア開発法及び演習	2①	1			1	1					
	オブジェクト指向言語及び演習	2②	1			1	1					
	代数的構造	2②	1			2						
	オートマトン・形式言語及び演習	2②	3			1						
	符号理論	2④	1			1						
	数値解析及び演習	3①	2			1						
	計算機アーキテクチャ基礎及び演習1	3①	1.5				1					
	計算機アーキテクチャ基礎及び演習2	3①	1.5				1					
	非手続型言語及び演習	3①		2		1						
	数理統計学	2④		1		1						
	機械学習	3①		2		1						
	信号処理	3①		2		1						
	コンパイラ	3③	2			1						
	データベース1	3③	1			1	1					

データベース2	3④	1			1	1						
最適化1	3③	1			1							
最適化2	3④	1			1							
人工知能基礎1	3③	1			1							
人工知能基礎2	3④	1			1							
先端計算機アーキテクチャ1	3③		1		1							
先端計算機アーキテクチャ2	3④		1		1							
オペレーティング・システム及び演習1	3③		1		1		1					
オペレーティング・システム及び演習2	3④		1		1		2					
ソフトウェア設計法1	3③		1						2			
ソフトウェア設計法2	3④		1						2			
情報ネットワーク	3③		1		1							
ネットワークセキュリティ	3④		1		1							
自然言語処理1	3③		1						1			
自然言語処理2	3④		1						1			
生体情報処理	3③		2						1			
画像処理	3④		2		1							
計算理論	3④		1		1							
システム検証及び演習	4①		1		1				1			
知能ロボットシステム制御	4①		2		1							
コンピュータ科学実験1	3①	1.5							1			
コンピュータ科学実験2	3③	1.5							1			
コンピュータ科学実験3	3④	1							1			
卒業研究	4④	6					16		14			
							17					

家庭の事情により、就任  
辞退(29)

家庭の事情により、就任  
辞退(29)

- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
48	183	0	231	48	183	0	231	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{231} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 うち附属病院 51,789㎡			
	校舎敷地	617,966 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	617,966 ㎡				
	運動場用地	105,994 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	105,994 ㎡				
	小 計	723,960 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	723,960 ㎡				
	そ の 他	2,495,186 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	2,495,186 ㎡				
	合 計	3,219,146 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,219,146 ㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	578,743 ㎡ ( 578,743 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	578,743 ㎡ ( 578,743 ㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	234 室	240 室	1,326 室	17 室 (補助職員 1 人)	14 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	情報学部			96 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	点	点	点				
	情報学部	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)		
計	3,272,188 [1,527,524] (3,272,188 [1,527,524])	54,571 [23,725] (54,571 [23,725])	30,880 [30,309] (30,880 [30,309])	59,261 (59,261)	17,798 (17,798)	129,577 (129,577)			
(6) 図書館	面 積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
	24,829 ㎡		2,031 席		3,140,500 冊				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	9,229 ㎡		弓道場、プール(25m×7コース)、陸上競技場(400mトラック)、テニスコート(11面)、野球場(1面)、相撲道場・ボクシング練習場・ゴルフ練習場・アーチェリー練習場・ライフル射撃場(各1か所)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部 人文学科	4	125	3年次10	520 520	学士(文学)	1.06	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
教育学部 人間発達科学科	4	65	3年次10	280 280	学士(教育学)	1.10	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
法学部 法律・政治学科	4	150	3年次10	620 620	学士(法学)	1.05	昭和24年度 平成9年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
経済学部 経済学科	4	140		840 560	学士(経済学)	1.06	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町	経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
経営学科	4	65		260	学士(経済学)		昭和24年度		
学部共通				20					
情報文化学部 自然情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度 平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止 平成29年より学生募集停止
社会システム情報学科	4	—		—	学士(情報文化学)	—	平成5年度		
学部共通			3年次10	20					
情報学部 自然情報学科	4	38	—	135 38	学士(情報学)	1.02	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
人間・社会情報学科	4	38	—	38	学士(情報学)	1.02	平成29年度		
コンピュータ科学科	4	59	—	59	学士(情報学)	1.11	平成29年度		
理学部 数理学科	4	55	—	1080 220	学士(理学)	1.05	昭和24年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入した。
物理学科	4	90	—	360	学士(理学)		昭和24年度		
化学科	4	50	—	200	学士(理学)		昭和24年度		
生命理学科	4	50	—	200	学士(理学)		平成8年度		
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士(理学)		平成4年度		
医学部 医学科	6	107	3年次5	1520 662	学士(医学)	1.01	昭和24年度 昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
保健学科	4	200	3年次20 2年次6	858	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部				—					
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度 平成8年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度		平成29年より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		平成29年より学生募集停止
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度		平成29年より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度		平成29年より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	99	学士（工学）	1.04	平成29年度		
物理工学科	4	83	—	83	学士（工学）	1.04	平成29年度		
マテリアル工学科	4	110	—	110	学士（工学）	0.99	平成29年度		
電気電子情報工学科	4	118	—	118	学士（工学）	1.02	平成29年度		
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	150	学士（工学）	1.04	平成29年度		
エネルギー理工学科	4	40	—	40	学士（工学）	0.95	平成29年度		
環境土木・建築学科	4	80	—	80	学士（工学）	1.00	平成29年度		
農学部				680					
生物環境科学科	4	35	—	140	学士（農学）	1.07	昭和26年度 平成18年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士（農学）	1.05	平成18年度		
応用生命科学科	4	80	—	320	学士（農学）	1.06	平成18年度		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（文学） 修士（歴史学）	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（文学） 博士（歴史学）	—			
人文学研究科									
人文学専攻 （博士前期課程）	2	104	—	104	修士（文学） 修士（歴史学） 修士（学術）	1.03	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
（博士後期課程）	3	61	—	61	博士（文学） 博士（歴史学） 博士（学術）	0.86			

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学員 入定	編入学員 入定	収容員 入定	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
教育発達科学研究科 教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学)	0.67	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	16	—	48	修士(教育) 博士(教育学) 博士(教育)	0.99		
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.83	平成12年度	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.06		
法学研究科 綜合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	0.87	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	17	—	51	博士(法学) 博士(比較法学) 博士(現代法学)	0.72		
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	170	法務博士 (専門職)	0.52	平成16年度	
経済学研究科 社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学) 修士(経営管理学)	0.84	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(経済学)	0.51		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(経済学)	1.25	平成12年度	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(経済学)	0.76		
情報学研究科 数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	14	修士(情報学) 修士(学術)	0.78	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	4	—	4	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 定員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(情報学)	1.27	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	修士(情報学) 修士(学術)	0.75		
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(情報学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	修士(情報学) 修士(学術)	0.80		
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	15	修士(情報学)	0.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	7	—	7	修士(情報学) 修士(学術)	1.42		
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	32	修士(情報学)	0.96	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	修士(情報学) 修士(学術)	0.66		
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	29	修士(情報学)	1.13	平成29年度	
(博士後期課程)	3	10	—	10	修士(情報学) 修士(学術)	0.60		
理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	132	修士(理学)	1.08	昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(理学)	0.73		
物質理学専攻 (博士前期課程)	2	63	—	126	修士(理学)	1.21	平成7年度	
(博士後期課程)	3	22	—	67	博士(理学)	0.68		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 定 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	42	—	84	修士(理学)	1.03	平成8年度		
(博士後期課程)	3	18	—	55	博士(理学)	0.30			
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士(理学)	0.25	平成29年度		
医学系研究科 総合医学専攻 (博士課程)	4	153	—	628	博士(医学)	1.14	昭和30年度 平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	12	博士(医学)	0.33	平成27年度		
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻 (博士課程)	4	4	—	4	博士(医学)	0.50	平成29年度		
分子総合医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
細胞情報医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成11年度		平成25年より募集停止
機能構築医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		平成25年より募集停止
健康社会医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成10年度		平成25年より募集停止
医科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(医科学)	1.07	平成13年度		
医療行政コース	1	10	—	10	修士(医療行政学)	1.00			
看護学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(看護学)	0.86	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(看護学)	1.33			

大学の名称	名古屋大学							備考		
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
医療技術学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(医療技術学)	1.27	平成14年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(医療技術学)	0.56				
リハビリテーション療法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士(リハビリテーション療法学)	1.40	平成14年度		愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(リハビリテーション療法学)	1.50				
工学研究科 化学・生物工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
マテリアル理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
電子情報システム専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和35年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				
社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—				

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
結晶材料工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和52年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成5年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
量子工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成3年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
マイクロ・ナノシステム工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成16年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
物質制御工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成8年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
計算理工学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成9年度		平成29年より学生 募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—			
有機・高分子化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.23	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	1.00			
応用物質化学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.00	平成29年度		
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.25			



大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
生命分子工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	28	修士(工学)	1.07	平成29年度	
(博士後期課程)	3	6	—	6	博士(工学)	1.16		
応用物理学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
物質科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	39	修士(工学)	0.94	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
材料デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.08	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.00		
物質プロセス工学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	35	修士(工学)	1.28	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.33		
化学システム工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	1.14	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.12		
電気工学専攻 (博士前期課程)	2	34	—	34	修士(工学)	0.97	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.44		
電子工学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	47	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	13	—	13	博士(工学)	0.38		

大学の名称	名古屋大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
情報・通信工学専攻 (博士前期課程)	2	33	—	33	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
機械システム工学専攻 (博士前期課程)	2	66	—	66	修士(工学)	0.78	平成29年度	
(博士後期課程)	3	14	—	14	博士(工学)	0.35		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	1.19	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.75		
航空宇宙工学専攻 (博士前期課程)	2	38	—	38	修士(工学)	1.15	平成29年度	
(博士後期課程)	3	8	—	8	博士(工学)	0.62		
エネルギー理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.33	平成29年度	
(博士後期課程)	3	5	—	5	博士(工学)	0.60		
総合エネルギー専攻 (博士前期課程)	2	18	—	18	修士(工学)	1.11	平成29年度	
(博士後期課程)	3	4	—	4	博士(工学)	1.25		
土木工学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	36	修士(工学)	0.88	平成29年度	
(博士後期課程)	3	9	—	9	博士(工学)	0.22		
生命農学研究科 生物圏資源学専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(農学)	1.12	昭和30年度 平成11年度	愛知県名古屋市千種区不老町
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(農学)	0.86		

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
生物機構・機能科学専攻 (博士前期課程)	2	37	—	74	修士(農学)	1.14	平成9年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(農学)	0.54			
応用分子生命科学専攻 (博士前期課程)	2	39	—	78	修士(農学)	1.21	平成10年度		
(博士後期課程)	3	12	—	36	博士(農学)	0.44			
生命技術科学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.10	平成16年度		
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	1.14			
国際開発研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.22	平成3年度 平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.99			
国際協力専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(国際開発学) 修士(学術)	1.20	平成4年度		
(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(国際開発学) 博士(学術)	0.84			
国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(学術)	—	平成5年度		平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)	—			
多元数理科学研究科 多元数理科学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(数理学)	1.07	平成7年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士(数理学)	0.39			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際言語文化研究科 日本語文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—	平成10年度		
国際多元文化専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士(文学)	—	平成10年度		
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術) 博士(文学) 博士(学術)	—			
環境学研究科 地球環境科学専攻 (博士前期課程)	2	53	—	107	修士(環境学)	0.89	平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町	
(博士後期課程)	3	24	—	74	修士(理学) 博士(環境学) 博士(理学)	0.42	平成13年度		
都市環境学専攻 (博士前期課程)	2	47	—	94	修士(環境学)	1.31	平成13年度		
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士(工学) 修士(建築学) 博士(環境学) 博士(工学) 博士(建築学)	0.47			
社会環境学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	63	修士(環境学)	1.00	平成13年度		
(博士後期課程)	3	13	—	49	修士(社会学) 修士(地理学) 修士(法学) 修士(経済学) 博士(環境学) 博士(社会学) 博士(地理学) 博士(法学) 博士(経済学)	0.58			

大学の名称	名古屋大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報科学研究科							平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町	平成29年より学生募集停止
計算機数理学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)				
情報システム学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)				
メディア科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)				
複雑系科学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)				
社会システム情報学専攻							平成15年度		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(情報科学)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士(学術)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(情報科学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)				
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(学術)				

大学の名称	名古屋大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	59	修士(創薬科学)	1.05	平成24年度 平成24年度	愛知県名古屋市千 種区不老町	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(創薬科学)	0.80			

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(国立大学法人)が設置している全ての大学(学部, 学科)及び大学院(専攻)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・ 学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・ 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・ AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・ 「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報学部 コンピュータ科学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	酒井 正彦	平成29年4月	インフォマティクス1※ オートマトン・形式言語及び演習 非手続型言語及び演習 卒業研究						
専	教授	金森 敬文	平成29年4月	最適化1 最適化2 卒業研究						
専	教授	枝廣 正人	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティクス1※ 論理設計及び演習1 論理設計及び演習2 卒業研究						
専	教授	高田 広章	平成29年4月	インフォマティクス1※ PBL2 PBL3 オペレーティング・システム及び演習1 オペレーティング・システム及び演習2 卒業研究						
専	教授	関 浩之	平成29年4月	基礎セミナーA 離散数学及び演習 情報理論 代数的構造 符号理論 計算理論 卒業研究						
専	教授	結縁 祥治	平成29年4月	インフォマティクス1※ 論理学1 論理学2c コンパイラ システム検証及び演習 卒業研究						
専	教授	村瀬 勉	平成29年4月	インフォマティクス1※ 情報セキュリティ とリテラシー1 情報ネットワーク ネットワークセキュリティ 卒業研究						
専	教授	片桐 孝洋	平成29年4月	先端計算機アーキテクチャ1 先端計算機アーキテクチャ2 卒業研究						

専	教授	山本 雅基	平成29年4月	PBL2 PBL3 卒業研究						
専	教授	坂本 直史	平成29年4月	PBL2 PBL3 オペレーティング・システム及び演習1 オペレーティング・システム及び演習2 卒業研究			後任未定			平成29年3月 坂本直史教授就任辞退(29) 「後任未定」担当する 全科目に十分な数の専任教員が配置されているため、支障はない。
専	教授	村瀬 洋	平成29年4月	インフォマティクス3※ 情報の挑戦者・開拓者たち 確率統計及び演習 数値解析及び演習 数理統計学 卒業研究						
専	教授	戸田 智基	平成29年4月	信号処理 卒業研究						
専	教授	外山 勝彦	平成29年4月	離散数学及び演習 代数的構造 卒業研究						
専	教授	石川 佳治	平成29年4月	基礎セミナーA インフォマティクス1※ データマイニング入門 データベース1 データベース2 卒業研究						
専	教授	森 健策	平成29年4月	インフォマティクス3※ ソフトウェア開発法及び演習 オブジェクト指向言語及び演習 機械学習 卒業研究						
専	教授	間瀬 健二	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティクス3※ 画像処理 知能ロボットシステム制御 卒業研究						
専	教授	長尾 確	平成29年4月	情報科学入門 インフォマティクス3※ 人工知能基礎1 人工知能基礎2 卒業研究						
専	准教授	西田 直樹	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2 コンピュータ科学実験1 コンピュータ科学実験2 コンピュータ科学実験3 卒業研究						



専	准教授	本田 晋也	平成29年4月	インフォマティクス1※ PBL2 PBL3 計算機アーキテクチャ基礎及び演習1 計算機アーキテクチャ基礎及び演習2 卒業研究						
専	准教授	吉田 則裕	平成29年4月	PBL2 PBL3 ソフトウェア設計法1 ソフトウェア設計法2 卒業研究						
専	准教授	森崎 修司	平成29年4月	情報リテラシー(理系) ソフトウェア設計法1 ソフトウェア設計法2 卒業研究						
専	准教授	中澤 巧爾	平成29年4月	論理学1 論理学2c システム検証及び演習 卒業研究						
専	准教授	嶋田 創	平成29年4月	情報セキュリティとリテラシー1 情報セキュリティとリテラシー2 卒業研究						
専	准教授	荻野 正雄	平成29年4月	プログラミング1 プログラミング2 卒業研究						
専	准教授	倉地 亮	平成29年4月	PBL2 PBL3 卒業研究						
専	准教授	渡邊 陽介	平成29年4月	データベース1 データベース2 卒業研究						
専	准教授	井手 一郎	平成29年4月	線形代数学Ⅱ インフォマティクス3※ 卒業研究						
専	准教授	出口 大輔	平成29年4月	線形代数学Ⅰ インフォマティクス3※ ソフトウェア開発法及び演習 オブジェクト指向言語及び演習 卒業研究						
専	准教授	工藤 博章	平成29年4月	生体情報処理 卒業研究						
専	准教授	小川 泰弘	平成29年4月	情報セキュリティとリテラシー2 プログラミング1 プログラミング2 卒業研究						

専	准教授	松原 茂樹	平成29年4月	インフォマティクス3※ 自然言語処理1 自然言語処理2 卒業研究						
専	助教	松原 豊	平成29年4月	PBL2 PBL3						
兼担	教授	松原 洋	平成29年4月	微分積分学 I 微分積分学 II 論理学1 論理学2a						
兼担	教授	吉信 康夫	平成29年4月	線形代数学 I 線形代数学 II 論理学2a						
兼担	教授	杉山 雄規	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※						
兼担	教授	時田 恵一郎	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス1 ※						
兼担	教授	吉田 久美	平成29年4月	化学基礎 I 情報システムとしての自然1：生きる※						
兼担	教授	太田 元規	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然1：生きる※ シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	古賀 伸明	平成29年4月	物質と科学 シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	長岡 正隆	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス2 ※						
兼担	教授	有田 隆也	平成29年4月	基礎セミナーB インフォマティクス2※ 複雑系科学の基礎						

兼担	教授	北 栄輔	平成29年4月	図情報とコンピュータ インフォマティクス2※ 情報の挑戦者・開拓者たち プログラミング2 情報システムとしての自然1：生きる※ 情報システムとしての自然2：流れる※ データマイニング入門 問題解決・課題解決の科学1※ 問題解決・課題解決の科学2 マネジメント PBL1						
兼担	教授	畔上 秀幸	平成29年4月	情報リテラシー(理系) シミュレーション・サイエンス2※						
兼担	教授	渡邊 崇	平成29年4月	アルゴリズム1 アルゴリズム2 情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1※						
兼担	教授	大岡 昌博	平成29年4月	基礎セミナーB 情報システムとしての自然2：流れる※						
兼担	教授	内山 知実	平成29年4月	情報システムとしての自然2：流れる※ シミュレーション・サイエンス1※						
兼担	教授	栗本 英和	平成29年4月	意思決定※						
兼担	教授	米山 優	平成29年4月	インフォマティクス2※ 感じる情報学※						
兼担	教授	戸田山 和久	平成29年4月	科学・技術の倫理 インフォマティクス2※ 論理学1 論理学2b 科学方法論 アカデミック・ライティング 情報倫理と法※						
兼担	教授	安田 孝美	平成29年4月	情報メディアとコミュニケーション インフォマティクス2※ 情報の挑戦者・開拓者たち						
兼担	教授	中村 登志哉	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4 インフォマティクス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業1						
兼担	教授	三輪 和久	平成29年4月	人間の知・機械の知 心の科学※						

兼担	教授	川口 潤	平成29年4月	インフォマティクス2※ 心の科学※							
兼担	教授	唐沢 (唐澤) 穰	平成29年4月	心理学 I 人間と行動 インフォマティクス2※ 心の科学※							
兼担	教授	武田 一哉	平成29年4月	インフォマティクス3※ システム数学及び演習1 システム数学及び演習2							
兼担	教授	井上 進	平成29年4月	歴史学							
兼担	教授	町田 健	平成29年4月	文学	兼担	准教授	田村 加代子	平成29年4月	文学		担当教員の変更(29)
兼担	教授	塩村 耕	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉田 純	平成29年4月	生と死の人間学		担当教員の変更(29)
兼担	教授	池内 敏	平成29年4月	歴史学							
兼担	教授	吉田 純	平成29年4月	哲学	兼担	教授	松澤 和宏	平成29年4月	哲学		担当教員の変更(29)
兼担	教授	栗田 秀法	平成29年4月	芸術と人間精神	兼担	教授	伊藤 大輔	平成29年4月	芸術と人間精神		担当教員の変更(29)
兼担	教授	中村 靖子	平成29年4月	文学							
兼担	教授	田中 智之	平成29年4月	ことばの不思議							
兼担	教授	南部 初世	平成29年4月	現代社会と教育							
兼担	教授	服部 美奈	平成29年4月	比較教育論							
兼担	教授	阿曾沼 明裕	平成29年4月	教育学							
兼担	教授	國分 典子	平成29年4月	法学							
兼担	教授	三浦 聡	平成29年4月	国際関係論	兼任	講師	木下 郁夫	平成29年4月	国際関係論		担当教員の変更(29)
兼担	教授	水島 朋則	平成29年4月	国際関係論	兼担	教授	山田 高敬	平成29年4月	国際関係論		担当教員の変更(29)
兼担	教授	姜 東局	平成29年4月	グローバル化時代の国際社会	兼担	教授	定形 衛	平成29年4月	グローバル化時代の国際社会		担当教員の変更(29)
兼担	教授	大河内 美紀	平成29年4月	日本国憲法							

兼担	教授	中野 妙子	平成29年4月	現代社会と法	兼担	准教授	松尾 陽	平成29年4月	現代社会と法	担当教員の変更(29)
兼担	教授	鍋島 直樹	平成29年4月	経済学B						
兼担	教授	工藤 教孝	平成29年4月	経済学A						
兼担	教授	清井 仁	平成29年4月	生涯健康と医学	兼担	教授	日比 英晴	平成29年4月	生涯健康と医学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	長縄 慎二	平成29年4月	現代医療と生命科学	兼担	教授	碓氷 章彦	平成29年4月	現代医療と生命科学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	浅野 みどり	平成29年4月	健康増進科学						
兼担	教授	田邊 靖博	平成29年4月	物質世界の認識						
兼担	教授	堀 勝	平成29年4月	エレクトロニクスと物性科学						
兼担	教授	佐宗 章弘	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	教授	社本 英二	平成29年4月	物理現象の科学						
兼担	教授	服部 東穂	平成29年4月	動植物の科学						
兼担	教授	浅川 晋	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	戸丸 信弘	平成29年4月	環境問題と人間						
兼担	教授	饗場 浩文	平成29年4月	微生物の科学						
兼担	教授	吉田 伸生	平成29年4月	現代数学への流れ						
兼担	教授	永尾 太郎	平成29年4月	現代数学への流れ	兼担	教授	太田 啓史	平成29年4月	現代数学への流れ	担当教員の変更(29)
兼担	教授	伊山 修	平成29年4月	複素関数論	兼任	講師	大島 和幸	平成29年4月	複素関数論	担当教員の変更(29)
兼担	教授	宇佐見 晃一	平成29年4月	国際開発学						
兼担	教授	大坪 滋	平成29年4月	開発の光と影						
兼担	教授	山形 英郎	平成29年4月	国際開発学	兼担	教授	伊東 早苗	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)

兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語（基礎） 英語（中級）	兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語（中級）	担当教員の変更(29)
兼担	教授	東村 岳史	平成29年4月	国際開発学	兼担	准教授	日下 渉	平成29年4月	国際開発学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	藤井 たぎる	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	教授	胡 潔	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	田所 光男	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	教授	西川 智之	平成29年4月	中級ドイツ語1						
兼担	教授	水戸 博之	平成29年4月	中級スペイン語1 中級スペイン語2						
兼担	教授	涌井 隆	平成29年4月	英語（コミュニケーション）						
兼担	教授	長畑 明利	平成29年4月	英語（上級）	兼担	教授	大名 力	平成29年4月	英語（上級）	担当教員の変更(29)
兼担	教授	浮葉 正親	平成29年4月	日本語（口頭表現）1 日本語（文章表現）1 日本語（文章表現）2 上級日本語（文章表現）1 上級日本語（文章表現）2						
兼担	教授	HAIG EDWARD	平成29年4月	特別英語セミナー（ライティング）1	兼担	准教授	WATSON Alex	平成29年4月	特別英語セミナー（ライティング）1	担当教員の変更(29)
兼担	教授	杉村 泰	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語1						
兼担	教授	星野 幸代	平成29年4月	中級中国語1						
兼担	教授	岡本 耕平	平成29年4月	地理学	兼担	准教授	伊賀 聖屋	平成29年4月	地理学	担当教員の変更(29)
兼担	教授	加藤 尚史	平成29年4月	統計学						
兼担	教授	篠田 雅人	平成29年4月	大気水圏環境の科学						
兼担	教授	高橋 誠	平成29年4月	地理学						

兼担	教授	高村 ゆかり	平成29年4月	現代社会と法							
兼担	教授	角皆 潤	平成29年4月	大気水圏環境の科学							
兼担	教授	谷川 寛樹	平成29年4月	自然環境と人間社会							
兼担	教授	山本 裕二	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義							
兼担	教授	石田 浩司	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ							
兼担	教授	秋間 広	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義							
兼担	教授	竹之内 隆志	平成29年4月	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ							
兼担	教授	中村 光廣	平成29年4月	物理学基礎Ⅱ							
兼担	教授	山中 章弘	平成29年4月	自然環境と人間	兼担	教授	竹本 さやか	平成29年4月	自然環境と人間	担当教員の変更(29)	
兼担	准教授	BUSCEMI Francesco	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ インフォマティクス4※ 線形代数の発展1 線形代数の発展2							
兼担	准教授	中村 泰之	平成29年4月	物理学基礎Ⅰ 意思決定※ シミュレーション・サイエンス1 ※							
兼担	准教授	青木 摂之	平成29年4月	情報システムとしての自然1：生きる※							
兼担	准教授	張 賀東	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス2 ※							
兼担	准教授	永峰 康一郎	平成29年4月	地球科学基礎Ⅰ 情報セキュリティ とリテラシー1 情報システムとしての自然1：生きる※							
兼担	准教授	鈴木 麗瑩	平成29年4月	基礎セミナーA 情報セキュリティ とリテラシー2 プログラミング1 クリエイティブ・ ネットワーキング							
兼担	准教授	鈴木 泰博	平成29年4月	インフォマティクス4※ 情報システムとしての自然2：流れる※							

兼担	准教授	安田 耕二	平成29年4月	シミュレーション・サイエンス2※						
兼担	准教授	小池 直人	平成29年4月	現代社会の思想的課題						
兼担	准教授	秋庭 史典	平成29年4月	芸術と人間 現代芸術論 インフォマティクス2※ 感じる情報学※ 情報創造						
兼担	准教授	久木田 水生	平成29年4月	科学・技術の哲学 インフォマティクス2※ 感じる情報学※ 情報セキュリティ とリテラシー2 情報創造 問題解決・課題解決の科学1※						
兼担	准教授	加藤 ジェーン	平成29年4月	プログラミング1 データマイニング 入門						
兼担	准教授	遠藤 守	平成29年4月	情報メディアとコミュニケーション 感じる情報学※ プログラミング1 クリエイティブ・ネットワーキング						
兼担	准教授	後藤 明史	平成29年4月	情報と国際社会※						
兼担	准教授	小川 明子	平成29年4月	英語（中級） 英語（コミュニケーション） 英語（上級） インフォマティクス2※ 情報と国際社会※ 情報と職業2						
兼担	准教授	井原 伸浩	平成29年4月	英語（基礎） 英語（中級） 英語（上級） インフォマティクス2※ 情報と国際社会※						
兼担	准教授	河村 則行	平成29年4月	社会変動と人間生活 社会調査						
兼担	准教授	丸山 康司	平成29年4月	社会と環境 社会調査						
兼担	准教授	青木 聡子	平成29年4月	社会学 社会調査						
兼担	准教授	川合 伸幸	平成29年4月	感じる情報学※ 心の科学※						



兼担	准教授	北神 慎司	平成29年4月	人間と環境 感じる情報学※ 心の科学※						
兼担	准教授	鈴木 敦命	平成29年4月	心理学Ⅰ インフォマティッ クス2※ 心の科学※						
兼担	准教授	竹内 栄二郎	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	宮島(山本) 千代美	平成29年4月	システム数学及び 演習1 システム数学及び 演習2						
兼担	准教授	林 謙一郎	平成29年4月	歴史学						
兼担	准教授	畷部 俊也	平成29年4月	生と死の人間学	兼担	准教授	吉武 純夫	平成29年4月	生と死の人間学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	大井田 晴彦	平成29年4月	文学	兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	加納 修	平成29年4月	表象と文化	兼担	准教授	栗田 秀法	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	宮地 朝子	平成29年4月	比較文化論	兼担	教授	齋藤 文俊	平成29年4月	比較文化論	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	安川 晴基	平成29年4月	文化を読む	兼担	教授	釘貫 亨	平成29年4月	文化を読む	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	佐野 誠子	平成29年4月	ことばの不思議	兼担	教授	滝川 睦	平成29年4月	ことばの不思議	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	教育と発達心理学	兼担	教授	平石 賢二	平成29年4月	教育と発達心理学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	内田 良	平成29年4月	教育学	兼担	准教授	ARANI Mohammad reza	平成29年4月	教育学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	五十嵐 祐	平成29年4月	心理学Ⅱ	兼担	准教授	清河 幸子	平成29年4月	心理学Ⅱ	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	河野 明日香	平成29年4月	現代社会と教育						
兼担	准教授	宮木 康博	平成29年4月	現代社会と法						
兼担	准教授	佐藤 史人	平成29年4月	民主主義の歴史と 現在						
兼担	准教授	古川 伸彦	平成29年4月	法学						
兼担	准教授	松中 学	平成29年4月	法学						

兼担	准教授	加藤 哲理	平成29年4月	政治学						
兼担	准教授	犬塚 篤	平成29年4月	経営学	兼担	准教授	宮崎 正也	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中屋 信彦	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	園田 正	平成29年4月	市場経済と社会	兼担	准教授	木越 義則	平成29年4月	市場経済と社会	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	中村 さやか	平成29年4月	経済学A	兼担	教授	柳瀬 明彦	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	江夏 幾多郎	平成29年4月	経営学	兼担	講師	高橋 秀徳	平成29年4月	経営学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	小堀 聡	平成29年4月	経済学B	兼担	講師	伊藤 カンナ	平成29年4月	経済学B	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	荒渡 良	平成29年4月	経済学A	兼担	准教授	玉井 寿樹	平成29年4月	経済学A	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	井原 邦夫	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	松浦 能行	平成29年4月	現代の生命科学						
兼担	准教授	植田 研二	平成29年4月	先端材料と物性物理						
兼担	准教授	加藤 剛志	平成29年4月	物理学実験	兼担	教授	八木 伸也	平成29年4月	物理学実験	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	稲垣 伸吉	平成29年4月	システム工学入門						
兼担	准教授	加地 範匡	平成29年4月	原子・分子の科学						
兼担	准教授	櫻田 啓	平成29年4月	物質世界の認識						
兼担	准教授	上口 美弥子	平成29年4月	バイオテクノロジー						
兼担	准教授	上口 智治	平成29年4月	遺伝子の世界						
兼担	准教授	石川 明	平成29年4月	食と農の科学						
兼担	准教授	村瀬 潤	平成29年4月	環境問題と人間						

兼担	准教授	山本 一清	平成29年4月	自然環境と人間社会						
兼担	准教授	岩崎 雄吾	平成29年4月	バイオテクノロジー						
兼担	准教授	村井 篤嗣	平成29年4月	食と農の科学	兼担	准教授	土井 一行	平成29年4月	食と農の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	久保 仁	平成29年4月	複素関数論	兼担	教授	吉田 伸生	平成29年4月	複素関数論	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	笠井 直美	平成29年4月	中級中国語2						
兼担	准教授	SAVELIEV IGOR	平成29年4月	ロシア語1 ロシア語2 ロシア語3 ロシア語4 中級ロシア語1 中級ロシア語2						
兼担	准教授	西村 秀人	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語2						
兼担	准教授	坂部 晶子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2						
兼担	准教授	渡辺 美樹	平成29年4月	英語(コミュニケーション)						
兼担	准教授	WEEKS Mark Charles	平成29年4月	特別英語セミナー(プレゼンテーション)1 特別英語セミナー(プレゼンテーション)2	兼担	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー(プレゼンテーション)1 特別英語セミナー(プレゼンテーション)2	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	GROSS Jeremy david	平成29年4月	特別英語セミナー(リーディング)1 特別英語セミナー(リーディング)2	兼担	准教授	NUSKE Kyle david	平成29年4月	特別英語セミナー(リーディング)1	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	古田 香織	平成29年4月	ドイツ語1 ドイツ語2 ドイツ語3 ドイツ語4						
兼担	准教授	奥田 智樹	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4 中級フランス語1 中級フランス語2						
兼担	准教授	山口 庸子	平成29年4月	中級ドイツ語2						

兼担	准教授	鶴巻 泉子	平成29年4月	中級フランス語1						
兼担	准教授	新井 美佐子	平成29年4月	フランス語1 フランス語2 フランス語3 フランス語4						
兼担	准教授	志波 彩子	平成29年4月	スペイン語1 スペイン語2 スペイン語3 スペイン語4 中級スペイン語1						
兼担	准教授	依山 雄司	平成29年4月	日本語（口頭表現）2 日本語（文章表現）1						
兼担	准教授	勝川 裕子	平成29年4月	中国語1 中国語2 中国語3 中国語4 中級中国語2						
兼担	准教授	宇都木 昭	平成29年4月	朝鮮・韓国語1 朝鮮・韓国語2 朝鮮・韓国語3 朝鮮・韓国語4 中級朝鮮・韓国語1 中級朝鮮・韓国語2						
兼担	准教授	山中 佳子	平成29年4月	地球惑星の科学						
兼担	准教授	涌田 幸宏	平成29年4月	産業社会と企業						
兼担	准教授	齋藤 輝幸	平成29年4月	都市と環境						
兼担	准教授	平原 靖大	平成29年4月	地球惑星の科学	兼担	教授	鷺谷 威	平成29年4月	地球惑星の科学	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	増沢 陽子	平成29年4月	日本国憲法						
兼担	准教授	奥貫 圭一	平成29年4月	地理学						
兼担	准教授	野村 康	平成29年4月	民主主義の歴史と現在						
兼担	准教授	中野 牧子	平成29年4月	統計学						
兼担	准教授	片山 敬章	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	兼担	教授	押田 芳治	平成29年4月	健康・スポーツ科学講義	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	黒田 健介	平成29年4月	エネルギーと環境	兼担	准教授	丹羽 健	平成29年4月	エネルギーと環境	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	松宮 弘明	平成29年4月	物質と材料の科学	兼担	教授	元廣 友美	平成29年4月	物質と材料の科学	担当教員の変更(29)

兼担	准教授	NILEP Chad Douglas	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 2 特別英語セミナー (リーディング) 1	兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 2 特別英語セミナー (リーディング) 1	担当教員の変更(29)
兼担	准教授	BAUMERT Nicolas	平成29年4月	中級フランス語2						
兼担	准教授	TOOHEY David edward	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 1	兼担	准教授	TOMKINSON Fiona gail	平成29年4月	特別英語セミナー (ライティング) 1	担当教員の変更(29)
兼担	講師	木原 貴行	平成29年4月	論理学2a						
兼担	講師	浦田 真由	平成29年4月	インフォマティク ス2※ 情報セキュリティ とリテラシー2						
兼担	講師	荒木 聡彦	平成29年4月	生物学基礎 I						
兼担	講師	伊藤 淳一	平成29年4月	原子・分子の科学						
兼担	講師	横山 慶子	平成29年4月	健康・スポーツ科 学実習 I 健康・スポーツ科 学実習 II						
兼担	講師	松井 裕美	平成29年4月	表象と文化	兼担	教授	阿部 泰郎	平成29年4月	表象と文化	担当教員の変更(29)
兼担	助教	笹原 和俊	平成29年4月	PBL1						
兼任	講師	小出 俣子	平成29年4月	アカデミック・イ ングリッシュ						
兼任	講師	後藤 憲秋	平成29年4月	情報倫理と法※						
兼任	講師	植村 元雄	平成29年4月	情報倫理と法※						
兼任	講師	馬淵 浩一	平成29年4月	科学技術史						
兼任	講師	竹内 創	平成29年4月	現代芸術論						
兼任	講師	梶田 美香	平成29年4月	音楽芸術論						
兼任	講師	村上 泰介	平成29年4月	表象芸術論						
兼任	講師	齋藤 滋	平成29年4月	宗教と人類文化						

兼任	講師	本村 耐樹	平成29年4月	宗教と人類文化						
兼任	講師	井上 研	平成29年4月	異文化論						
兼任	講師	竹下 至	平成29年4月	科学技術社会論						
兼任	講師	森本 頼子	平成29年4月	音楽芸術論						
兼任	講師	鈴木 秀憲	平成29年4月	科学技術とジェンダー						
					兼任	講師	谷川 好男	平成29年4月	線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ	担当教員の追加(29)
					兼任	講師	大島 和幸	平成29年4月	微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	担当教員の追加(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
17	14	0	1	32	16	14	0	1	31	16	14	0	1	31
(16)	(14)	(0)	(1)	(31)						[ Δ1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ Δ1 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
1	教授	坂本 直史	選択	PBL2	①	家庭の事情のため就任辞退(29)							
			選択	PBL3	①								
			選択	オペレーティング・システム及び演習1	①								
			選択	オペレーティング・システム及び演習2	①								
			必修	卒業研究	①								
2													
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)							
1	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|--|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1		該当なし											
2													
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)							
0	人	必修		科目	必修		科目	必修		科目	必修		科目
		選択		科目	選択		科目	選択		科目	選択		科目
		自由		科目	自由		科目	自由		科目	自由		科目
		計		科目	計		科目	計		科目	計		科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|--|



上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1 人	必修	1 科目	必修	1 科目	必修	科目	必修	科目
	選択	4 科目	選択	4 科目	選択	科目	選択	科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	科目	自由	科目
	計	5 科目	計	5 科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退の教員が担当する科目については、当該教員と同じ研究領域の専任教員が十分な人数で共同で担当しており、授業の実施に支障はないと考えている。  
 学生に配布するシラバスや学生便覧の印刷以前に本件が明らかとなったことから、当該教員は掲載されておらず、学生への周知についても問題はない。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (27年6月)	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻)</p> <p>1. 養成する人材像が一般的・包括的な記述となっており、このことからディプロマポリシーも明確ではない。国際連携教育課程制度の趣旨は、我が国の大学と外国の大学が、双方の強みを活かし、また、補完しあいながらより充実した教育研究を行うことであることを踏まえ設置計画の履行に当たっては以下について留意すること。</p> <p>(1) 社会一般や入学を希望する学生に対して、国際連携教育課程制度を通じて養成される人材がどのような専門分野で活躍するかなどを具体的に示すこと。特に、ディプロマポリシーにある「国際的共同研究を推進」について具体的に明示すること。</p>	<p style="color: red;">留意事項</p>	<p>(1) 医学分野において従来からの個別化医療とともに、Genome解析手法を加え、より診断技術の精度を上げた precision medicine (精密医療) を推進するため、本学における神経がん融合研究、アデレード大学における臨床と結びついたトランスレーショナルリサーチといった両大学の特色を相互補完的に取り入れたカリキュラムに基づく国際連携教育課程制度を通じて養成される人材は、医学分野、特に基礎医学研究と観察的・介入的臨床研究を融合したトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する人材であり、ディプロマ・ポリシーに以下(参考1)のとおり追記して示すこととした。</p> <p>また、養成される人材の例として、①日本とオーストラリアの精神医学的疾患の特徴と研究体制を十分に把握し、この2国を含む複数国を巻き込んだ国際共同治験をリードする臨床医学研究者、②がん研究領域で研究者間の国際的関係を構築し、各国のがん研究の連携を図り、全体として世界のがん研究をリードする基礎医学研究者、③日本で高齢化社会に対する各種先駆的な取組に触れ、医学的見地から必要とされる技術について理解し、日本とオーストラリ</p>

アを含む世界各国で医学応用分野で指導的立場となる産業界リーダー、をホームページに掲載して社会一般や入学希望者に示すとともに、入学時全体ガイダンスにおいて入学者にも提示した。

さらに、ディプロマ・ポリシーに掲げる各項目については、論文審査以外にも学生から年次レポートを提出させ、指導教員と合同運営委員会によって評価・確認を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学位審査・学位授与が行われるようにした。

(参考1)

○ディプロマ・ポリシー

「豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富み、多様な学問的素養を身に付け、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける国際的共同研究を推進し、医学と人類の福祉の発展に著しく貢献できる人材」を養成する。

(28)

(2) 養成する人材像やディプロマポリシーを明確化するには、アドミッションポリシーとして、どのような人材を求めているかをより具体的に示し、2つのポリシーの対応関係についても留意すること。その際、「国際的に活躍する強い意欲」の解釈に幅が出ないように、入学者選抜における判断基準を定めるなど連携外国大学を含めた選考全体の意思疎通を十分に図ること。

(2) 本専攻において求める人材について、ディプロマ・ポリシーに追記したトランスレーショナルリサーチ、また、加速度的な高齢化社会に対応できる医工連携を含めた異分野連携を進めるため、アドミッション・ポリシーに以下(参考2)のとおり追記して示すこととした。

また、アドミッション・ポリシーに沿った入学動機を備えた学生であるか適性を評価するために、書類審査と口頭試問を行うとともに、基軸となる英語能力が入学選抜の基準を満たしているかTOEFL iBT等のスコアについて基準を設け、専攻全体で統一した意志疎通のもと入学審査を行っている。

(参考2)

○アドミッション・ポリシー

① 人間に対する共感と深い洞察力を持つ。

② 知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。

③ 広い視野を持ち、物事を多面的に捉えることができる。

④ 協調性があり、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおいて国際的に活躍する強い意欲がある。

(3) カリキュラムポリシーについても、上記を踏まえつつ、対応関係に齟齬が生じないように留意すること。

2. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。

3. 連携外国大学の教員組織について、本専攻の教育研究の目的を十分に果たし得る体制となっていることについて、社会一般や入学を希望する学生に対して、あらかじめ明示すること。

⑤ 独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。  
⑥ 異分野連携によるイノベーションの創出を行う資質を持つ。  
(28)

(3) カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びアドミッション・ポリシーへの対応を踏まえ、トランスレーショナルリサーチについて、以下(参考3)のとおり追記して示すこととした。

このカリキュラム・ポリシーに沿って、トランスレーショナルリサーチの知識・技術・倫理に加え、国際的研究組織構築のための戦略・手法・実例など幅広い知識を教授する講義を設けるなど、国際的視野と国際的競争力を有する医学研究者の養成を目標としたカリキュラムを作成した。

(参考3)

○カリキュラム・ポリシー  
「世界トップ大学同士の相互補完的協同教育により、高い倫理性、科学的論理性を修得させ、幅広い学問的素養を身に付けさせ、医学分野、特にトランスレーショナルリサーチにおける倫理と国際的共同研究の組織構築の戦略手法を学ばせること」

(28)

年間の学修計画書作成にあたっては、学生が既に身につけている知識、スキルや具体的な研究分野等に応じて、各指導教員から学生に対して履修モデル等を示しつつきめ細かな指導を行っている。また、成績評価基準についてはシラバスに記載するとともに、各指導教員が学生に対して個別に説明することとした。(28)

名古屋大学とアデレード大学で、基礎医学領域と臨床医学領域から幅広い専門分野を設定し、その医学研究領域をカバーする専任教員を有する教員組織についてシラバスとともに配付した。また、国際連携専攻入学時全体ガイダンスの中で、入学者に対して詳細に説明した。(28)

平成28年10月、連携外国大学の教員組織をホームページに掲載した。(29)

左記にあわせて、平成28年10月末までに連携外国大学の教員組織をホームページに掲載する。(28)

	<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>		<p>連携外国大学との調整を行う教員は、英語能力が高く、博士課程の学生を指導するのに足る十分な研究業績と国際経験を有するべきであると考え、オーストラリア国籍を有するとともに、カナダのSaskatchewan大学でBiologyの博士号、イギリスのCambridge大学で発行される英語教員免許を有し、オーストラリアのMonash大学薬学部でAssociate Professorとして薬物立体構造解析の研究を行っていた経歴を持つ教員を配置した。また、業務遂行を円滑に行うために語学能力の優れた専属秘書を配置し、体制を強化した。(28)</p>	
<p>設置時 (28年6月)</p>	<p>(同一設置者が設置する理学研究科名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻)</p> <p>1. 本専攻に置く博士後期課程の教育を研究指導のみによって行うのであれば、双方の大学が同種の学位を授与するに当たって求めている標準的な要件を踏まえつつ、本専攻において行われる研究指導において最低限行われるべき内容や要件を協定書等において明確にすること。その上で、国際的に通用する質を備える専攻として、教育研究活動の一層の水準の向上に努めること。</p> <p>2. 双方の大学から研究指導教員を選出する際は、専攻分野に関して高度の専門性が求められる博士後期課程の目的を踏まえ、学生が志向する研究分野に関する実質的な指導を行うことができる体制を構築すること。</p> <p>3. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>研究指導において最低限行われるべき内容である、 ①1年次の「口頭試問」 ②2年次の「Poster Presentation」 ③留学先における研究（最短6か月から1年間） ④3年次の「最終年次研究報告会」 ⑤博士論文執筆 ⑥最終的な口頭試問の実施については、両大学ですでに確認されている。また、学生に対しては、ガイダンスでこれらの内容を通知した。(29)</p> <p>研究指導教員選出の際は、専攻長及びアカデミックコーディネーターが、学生が志向する研究分野や内容を聴取し、学際的な共同研究の観点も踏まえつつ、効果的な研究指導が行われることを事前に十分検証した上で行うことにした。(29)</p> <p>協定書の締結にあたり、申請書に示した基本的な学務条項について記載した。また、研究指導に係る詳細については、ガイダンスにおいて周知した。(29)</p>	

<p>設置時 (28年11月)</p>	<p>(同一設置者が設置する医学系研究科名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻) 国際連携専攻については、両大学の入学資格を満たす必要があることから、既設の専攻と比べて要件が厳格となり敬遠されることが想定される。 本専攻の継続的な運営に支障が生じないよう、入学希望者のニーズを踏まえつつ、学生確保に最善を尽くすこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本専攻への応募に関心を示した学生に対して、応募前に面談し、本専攻の概要、入学資格、履修科目、修了要件などを説明することにより、本専攻への理解を促した。 連携外国大学における研究室の確保に当たっては、合同運営委員会が積極的に仲介し、希望に添った研究を実施できる適切な連携先の確保に努めた。(29)</p>	
-------------------------	--	-------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<情報学部 コンピュータ科学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	変更なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>名古屋大学では、学内共同教育研究施設として「高等教育研究センター」を設置し、高等教育に関する専門的・実践的研究のもと、各種の教育改善支援を実施している。</p> <p>また、情報学部では、FDは学部執行部と教務委員会を主体として企画し、授業評価アンケートや教授会の前に講師を招いて実施する。</p> <p>さらに、全学的な取組みとして、Eラーニング研修において、「研究倫理教育」、「情報セキュリティ研究・自己点検」、「個人情報保護」、「公的資金の使用」等を全員が受講している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>執行部会議及び教務委員会は、それぞれ夏休みなどを除いて原則として毎月1回開催し、FDに関する事項を随時審議する。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業評価アンケートに関する事項</li> <li>・ FDに関する事項</li> </ul> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学新任教員研修FDへの参加</li> <li>・ 新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）</li> </ul> <p>また、以下の内容の実施を検討中</p>
--

- ・学生による授業評価アンケートの実施（各学期末）
- ・授業アンケート及び教員自己評価結果に基づく授業方法改善のためのFDの開催（4月）
- ・教育目標及びシラバスの対比評価の実施（4月）
- ・シラバスの点検（12月）
- ・教授会の前に行うテーマ別FD
- ・研究費の適切な使用について
- ・研究室訪問型ハラスメント防止研修
- ・知的財産権及び秘密情報管理等について
- ・外国人客員教員の英語によるFD

#### b 実施方法

- ・本学新任教員研修FDへの参加  
 全学センターである高等教育研究センターの主催により、全学の新任教員を対象とした研修会を行った。各種職務の遂行に必要な基本情報及び授業で困ったときや改善したいときに参考となる情報を得る機会とした。
- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）  
 新入生ガイダンスを開催し、本学部の教育目標、カリキュラム及び修了要件を周知するとともに、新入生教育意識調査アンケートを実施し、その結果をFDに反映させる。

#### c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・本学新任教員研修FDへの参加  
 平成29年4月開催に情報学部新任教員2名が参加
- ・新入生に対する教育意識調査の実施（4月新入生ガイダンス）  
 平成29年4月開催に専任教員多数が参加

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成29年度は開設年度のため、取組実績なし。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

少人数のセミナーを除く全講義科目で学生による授業評価を実施し、アンケート結果を教員にフィードバックして教育の質の向上に役立てる。実施時期は、原則として各期における最終の授業時に行う。各授業科目についてアンケートが実施されることは、事前に教員及び学生に通知する。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果は、教員及び学生に公開することを原則とし、項目を選んで公開する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

### （3）自己点検・評価等に関する事項

#### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

申請時のシラバスの内容に相当する授業科目が漏れなく開講できており、初年度としてはほぼ設置の趣旨・目的を達成したと考えられる。

今後も、さらに総合的な教育体制を整備し、本学部の一層の充実を図る。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

自己点検・評価の結果の公表は、本学部が完成年度を迎える平成33年3月以降を予定している。



b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(  有 ・  無 )

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

( 平成29年 6月 1日 )